肢体不自由児を中心とした療育の今日的課題及び
心身障害児総合医療療育センターの今後の在り方についての検討会

報告書

平成 27 年 12 月

社会福祉法人　日本肢体不自由児協会

検討会委員

朝貝 芳美　全国肢体不自由児施設運営協議会会長
（信濃医療福祉センター理事長）
○岩谷 力　長野保健医療大学学長
（元 国立障害者リハビリテーションセンター総長）
上野 密　全国肢体不自由児者父母の会連合会常務理事
宇野 裕　筑波大学医学医療系　准教授
（元 日本社会事業大学専務理事）
岡　明　東京大学医学部小児科学教授
木倉 敬之　みずほ銀行公共法人部顧問
（元 厚生労働省保険局長）
田中 栄　東京大学医学部整形外科学教授
芳賀 信彦　東京大学医学部リハビリテーション科学教授
水口 雅　東京大学医学部発達医科学教授
三室 秀雄　東京都教職員研修センター研修部教育経営課教授
（元 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会長）
柳迫 康夫　東京農業大学農学部バイオセラピー学科教授
（元 心身障害児総合医療療育センター整肢療護園長）
井田 千昭　日本肢体不自由児協会常務理事
北住 映二　心身障害児総合医療療育センター所長
小﨑 慶介　心身障害児総合医療療育センター整肢療護園長
米山 明　心身障害児総合医療療育センター外来療育部長
（○：委員長）

検討会開催日

第１回　平成 27 年 7 月 29 日
第２回　平成 27 年 8 月 28 日
第３回　平成 27 年 9 月 25 日
第４回　平成 27 年 10 月 23 日

目次

要旨　i ～iv
はじめに　1
Ⅰ．　肢体不自由児を中心とした療育の今日的状況　3
　1　基本的な状況　3
　2　心身障害児総合医療療育センターの機能と果たしてきた役割　5
Ⅱ．　心身障害児総合医療療育センターの沿革と現状　6
　1　日本肢体不自由児協会、心身障害児総合医療療育センターの沿革　6
　2　心身障害児総合医療療育センターの現況　6
　　1)　外来療育部門　7
　　2)　入所部門　7
　　（１）　整肢療護園　7
　　（２）　むらさき愛育園　8
　　3)　研修・研究活動　8
　　（１）　療育研修所における講習会　8
　　（２）　研究活動：学会や研修会等での講演・講義　8
　　4)　地域連携支援活動　8
　　（１）　医師派遣　8
　　（２）　研修会　8
　　（３）　行政事業への参画　8
　　（４）　板橋区子ども発達支援センター事業　8
　　5)　財政状況　8
Ⅲ．　日本肢体不自由児協会・心身障害児総合医療療育センターの今後の在り方　9
　1　使命　9
　2　基本的役割　9
　3　先進的療育拠点として持つべき機能　9
　　1)　先進的療育医療　9
　　2)　入所支援　10
　　3)　相談支援　10
　　4)　地域施設訪問支援　10
　　5)　在宅支援　10
　　6)　時代の科学を動員する研究　10
　　7)　専門職人材育成・研修　10
　　8)　情報・文化・啓発活動　11
　　9)　全国の肢体不自由児療育施設の中核的役割　11
Ⅳ　日本肢体不自由児協会・心身障害児総合医療療育センターの運営体制整備　11
　引用資料・資料名　12
資料

肢体不自由児を中心とした療育の今日的課題及び心身障害児総合医療療育センターの今後の在り方についての検討会 報告書

要旨

1. 検討の背景

心身障害児総合医療療育センターは、昭和 17 年（1942 年）の整肢療護園の開設以来 70 年余にわたって、社会福祉法人日本肢体不自由児協会が厚生労働省の委託を受けて運営する障害児支援施設であり、整肢療護園（医療型障害児入所施設・療養介護施設）、むらさき愛育園（医療型障害児入所施設・療養介護施設）、外来療育部門（通園指導部門を含む）、研修・研究部門から構成され、医療・福祉サービスを提供している。

近年、社会の少子高齢化、養育環境の変化、医学・医療の進歩による障害の多様化、障害モデルの変化、法制度の整備などに伴って、障害児療育は医療を中心とした支援から医療・福祉・教育の包括的支援へと変容している。

療育環境の変化に伴った肢体不自由児施設長期入所児の減少、多様化するニーズへ対応するための機能の多様化による運営面の非採算性の増加、国からの委託費の減少等により、心身障害児総合医療療育センターの経営状況は厳しくなっている。

心身障害児総合医療療育センターの利用者は、知的障害・肢体不自由の重複障害児、重症心身障害児・者、虐待などにより家庭での養育が困難な心身障害児など多様な支援が必要な子どもに加え、発達障害者支援法で規定する「発達障害」児が増加している。障害児支援が在宅生活を支える医療・福祉に向かう中で、心身障害児総合医療療育センターは、モデル的療育を実践し、専門職の養成・能力開発、情報発信などを通して、国のナショナルセンターとしての役割を果たさなければならない。

このような重症心身障害児を含む肢体不自由児を取り巻く環境の変化ならびに日本肢体不自由児協会、心身障害児総合医療療育センターの現状を踏まえ、今後の在り方を検討するため、日本肢体不自由児協会は「肢体不自由児を中心とした療育の今日的課題及び心身障害児総合医療療育センターの今後の在り方についての検討会」を設置し、4 回にわたり、議論を重ね、日本肢体不自由児協会、心身障害児総合医療療育センターの基本的役割と果たすべき機能、運営体制の見直し等について、検討した。

2. 現状

1）肢体不自由児･者（重症心身障害児･者を含む）数の増加と支援ニーズの多様化

重症心身障害児も含む肢体不自由児（以下、肢体不自由児）の数は少子化の中においても増加している。過去半世紀間に、医学・医療の進歩、医療・福祉体制の整備により、先天的疾患等により心身に重度で複合的な障害をもつこどもの生命予後が改善され、在宅の重症障害児・者が増加し、在宅生活が困難な重症心身障害者は、重症心身障害児施設が生活の場となっている。

戦後 70 年、医療の進歩、社会福祉制度の発展により、療育環境は整備されたが、21 世紀に入ってから、社会の少子高齢化、肢体不自由児の障害の重複・重症化、継続的に施設サービスが必要な成人の増加、社会参加促進による入園児童の減少、高次脳機能障害、発達障害など新たな障害の概念化などにより、肢体不自由児の持つ療育ニーズが多様化している。

2）肢体不自由児施設の運営環境

肢体不自由児療育施設の入園児の減少、障害の重複・重度化、施設利用が必要な成人障害者の増加、障害モデルの医療モデルから社会モデルへの転換などに対応するための、相談事業や心理担当者の配置増、入所部門職員配置増等に対して、旧来の療育施設の人的・物的資源により対応することは困難で、経営面の不採算性が大きくなり、委託費の減少が加わって、施設の運営環境が悪化している。

また、療育に関わる整形外科、小児科、リハビリテーション科医師、看護師等の確保と専門知識、技能の修得、向上が困難となっている。

3. 提言の内容

1）心身障害児総合医療療育センターが持つべき機能

心身障害児総合医療療育センターの持つべき機能は、肢体不自由（重症心身障害を含む）児を中心とした障害のある児・者への、療育医療、入所支援、児童発達支援（通所支援、保育所等訪問支援、相談支援）、地域生活支援の提供、ならびに、これらに関する研究、研修、情報活動である。

⑴ 療育医療

先進医療の成果を取り入れ、「療育の基盤となる医療」と「療育の基盤を持つ医療」の成果を検証し、発展させるとともに、先端技術の臨床応用を行う。

⑵ 入所支援

（ｉ）有期限入所支援

「療育の基盤を持つ医療」の特色を生かし、整形外科治療・リハビリテーション、親子入所、レスパイト・ショートステイなどの入所支援、被虐待障害児

の養護的入所など、個別のニーズを満たす入所支援サービスを提供する。

（ⅱ）長期入所支援

長期入所児・者にはライフステージに応じた課題を検討し、個々の多様なニーズに丁寧に応え、生活の質を高める支援サービスを提供する。

⑶ 相談支援

高い専門性を持つ相談員による相談支援を行う。

⑷ 地域施設訪問支援

地域通所施設、保育所、学校などに、専門的知識を伝え、支援技能を伝授し、学校を含む地域の障害児支援事業を支援する。

⑸ 在宅支援

在宅障害児（者）の発達支援、健康管理、機能向上、および、母親家族の育児支援・養育能力向上、地域生活支援のために、外来と有期限入所での支援、相談支援、地域施設訪問支援を行う。

⑹ 研究

先天異常、脳性麻痺等の肢体不自由児の各ライフステージでの医学的療育課題を検証し、包括的支援プログラムを開発し、普及を図る。

東京大学医学部、日本大学医学部、帝京大学医学部、国立障害者リハビリテーションセンター研究所などの共同のもとに、先端的研究の成果を取り入れ診断・治療、リハビリテーション手法、活動制限の代償・補完手法、福祉機器の開発研究を、とく在宅医療を要する児・者の従来のプログラムの見直し、新しいプログラムの開発、評価を行い、普及を図る。

⑺ 専門職人材育成、研修

従来の研修に加え、重症心身障害児者への訪問看護・在宅医療、訪問リハビリテーションなどの担当スタッフ、地域生活支援ヘルパー、重症心身障害児者相談支援事業担当者、学校看護師などを対象とした在宅生活支援研修を、国立障害者リハビリテーションセンター学院などとの協力のもとに行う。

人材育成、生涯学習、能力開発のために、臨床現場に医療・福祉専門職を受け入れる。

⑻ 情報･文化･啓発活動

肢体不自由、発達障害に関する医療、福祉などに関する各種情報を収集し、療育関係者ならびに親・保護者に提供する。日本肢体不自由児協会は、療育キャンプ、療育功労者の顕彰、絵画、写真展など、療育に関連する啓発・文化活動を継続、発展させ、センターはそれを積極的に支える。

⑼ 全国の肢体不自由児療育施設の中核的役割

全国の肢体不自由児施設等と共同・連携して、診療報酬、障害福祉サービス

等報酬の改定の働きかけ、療育の質を高めるための研究事業の推進などにおいて先導的役割を果たす。

2) 経営基盤強化

⑴ 運営体制の見直し

職員は、があらためて療育の理念、使命、役割を確認し、自己研鑽に心がけ、その任務の遂行に全力を傾注していかなければならない。

日本肢体不自由児協会と心身障害児総合医療療育センターとが一体となって医療・福祉サービスの提供体制の見直しを行い、専門家による経営診断を受けるなどして、経営基盤を固めて、事業の展開と運営が機能的、効率的に行われるようにすることが必要である。

障害児支援施設として、部門ごとに管理責任体制を明確にし、事業収入の増収を図り、財政状況を改善し、効率的運営により将来の発展基盤を固めるべきである。

⑵ 職員の能力開発

管理職の管理研修、職員の生涯学習、接遇研修などの専門職としての能力開発を継続的に行う体制を整備すべきである。

⑶ 経営資源の集中と業務の分担による効率的運営

機能が多岐にわたり過ぎるために、施設運営や基本的役割の遂行が困難になることを避ける必要がある。他の施設や地域の機関に委ねるべきものは委ね、本センターが担うべき内容を選択し、そこに重点を置いた機能を果たしていく方向を目指すべきである。

虐待や発達障害など、対象者も増大し、新たな法律も整備され行政としても体制整備が必要な分野については、本センターの負担が過大にならないように、東京都など関係自治体とも協議し、都内の対応できる施設の地域分担や、拠点とサテライトの重層的な整備などが進められるべきである。

⑷ PDCA サイクルの定着

中期的および短期的な活動・運営計画を策定し、実施、成果の評価、計画の見直しの過程（PDCA: Plan Do, Check Action cycle）を繰り返すことが必要である。

PDCA サイクルを機能させるために、毎年度ごとに自己評価報告書をまとめるとともに、外部委員を入れた運営委員会を設置するなどして、事業業績評価を行い、結果を公表すべきである。

はじめに

○　心身障害児総合医療療育センターは、昭和 17 年（1942 年）の整肢療護園の開設以来 70 年余にわたって、国の委託を受ける機関として肢体不自由児療育に先駆的役割を担ってきた。

○　日本肢体不自由児協会は、大正 14 年（1924 年）に設立された肢節不完児福利会（会長　高木憲次）を祖とする肢体不自由児療護施設を運営する団体である。現協会は、昭和 25 年（1950 年）に設立され、昭和 26 年（1951 年）10 月 1 日に国から整肢療護園の運営を委託された。

○　昭和 55 年（1980 年）に、肢体不自由児施設と重症心身障害児施設および新設の外来療育部が、「心身障害児総合医療療育センター」として統合され、「肢体不自由児施設整肢療護園の経営」、「重症心身障害児むらさき愛育園の経営」、「外来・通園療育事業、相談・判定・指導を行う事業」、「研究・療育職員の現任訓練・養成事業」をおこなう障害児療育の総合的なナショナルセンターとして厚生省（現厚生労働省）からの委託費交付の継続のもとに事業を展開してきた。

○　療育環境の変化による肢体不自由児施設長期入所児の減少、多様化するニーズへ対応するための機能の多様化による運営面の非採算性の増加、国からの委託費の減少等により、心身障害児総合医療療育センターの経営状況は厳しくなっている。

○　近年、社会の少子高齢化、養育環境の変化、医学・医療の進歩による障害の多様化、障害モデルの変化、法制度の整備などに伴って、障害児療育は医療を中心とした支援から医療・福祉・教育の包括的支援へと変容している。

○　我が国は平成 14 年（2002 年）障害者基本計画を策定し、「国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会」を目指すことが掲げられた。

○　平成 25 年（2013 年 9 月）の障害者基本法に基づき策定された国の障害者基本計画（第 3 次）においては、共生社会の実現に向けて、障害者の自立と社会参加の支援のための施策の基本計画が示された [1]。

同計画では、障害児支援の充実のため、障害児やその家族を含め、すべての子どもや子育て家庭を対象として、「身近な地域において、医療、リハビリテーション、教育・保育、指導訓練、自宅介護、短期入所、発達支援など必要な支援が受けられる体制の充実をはかること」、「最新の知見や技術を活用し疾病等の病因・病態の解明、予防、治療等に関する研究開発を推進すること」、「生活機能全体の維持・回復のため、リハビリテーション技術の開発を推進すること」、「医師・歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の医

学的リハビリテーションに従事する者の人材確保、教育の充実、資質の向上をはかること」、「障害の早期発見と早期療育を図るための療育の知見と経験を有する医療・福祉専門職の確保を図ること」などの方向性が示された。

○　平成 26 年（20014 年 7 月 16 日）には、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部が開催した障害児支援の在り方に関する検討会は「今後の障害児支援の在り方について（報告書）～「発達支援」が必要な子どもの支援はどうあるべきか～」において、今後の障害児支援の進むべき方向として、

（１）地域における「縦横連携」を進めるための体制づくり

（２）「縦横連携」によるライフステージごとの個別の支援の充実

（３）継続的な医療支援等が必要な障害児のための医療・福祉の連携

（４）家族支援の充実

（５）個々のサービスの質のさらなる確保

が提言された [2]。

○　心身障害児総合医療療育センターの利用者は、知的障害・肢体不自由の重複障害児、重症心身障害児・者、虐待などにより家庭での養育が困難な心身障害児など多様な支援が必要な子どもに加え、近年発達障害児（自閉症など、発達障害者支援法で規定する「発達障害」児）が増加している。障害児支援が在宅生活を支える医療・福祉に向かう中で、心身障害児総合医療療育センターは、モデル的療育を実践し、専門職の養成・能力開発、情報発信などを通して、国のナショナルセンターとしての役割を果たさなければならない。

○　このような重症心身障害児を含む肢体不自由児を取り巻く環境の変化ならびに日本肢体不自由児協会、心身障害児総合医療療育センターの現状を踏まえ、今後の在り方を検討するため、日本肢体不自由児協会は「肢体不自由児を中心とした療育の今日的課題及び心身障害児総合医療療育センターの今後の在り方についての検討会」を設置し、4 回にわたり、議論を重ね、日本肢体不自由児協会、心身障害児総合医療療育センターの基本的役割と果たすべき機能、運営体制の見直し等について、検討した。ここにその検討結果をまとめた。

○　今後は、日本肢体不自由児協会・心身障害児総合医療療育センターが一体となり、この検討結果を踏まえ、これまで先達が築いてきた障害のある子どもと親・保護者への療育の伝統のうえに、国の障害児療育の中核機関としてその役割及び機能が十分発揮できる組織づくりを進め、障害児の明るい未来がみえる共生社会の実現に向け、職員が一丸となって力を尽くすことが強く求められる。

Ⅰ．肢体不自由児を中心とした療育の今日的状況

１．基本的な状況

○　特別支援学校における全国調査では、肢体不自由のある生徒の在籍数は、平成 17 年度 17,092 名から平成 26 年度 18,465 名と増加傾向にある。通常学校に通う肢体不自由児の数も加え、重症心身障害児も含む肢体不自由児（以下、肢体不自由児）の数は少子化の中においても増加している [3]。

この調査結果によると、栄養管理、呼吸管理、排泄管理、血液透析など、医療的ケアを必要とする児童・生徒数は、通学で 12,504 名、訪問学級で 1,003 名を数え、重度重複障害のある児童、医療的支援を必要とする肢体不自由の児童数が増加している。

また、全国の特別支援学校及び小中学校における医療的ケアが必要な児童生徒数は、平成 26 年度公立の特別支援学校で 7,774 名（幼児部児童を含む）、公立の通常小・中学校で 976 名であり、特別支援学校幼児部ならびに公立通常小・中学校の 8,750 名の児童・生徒が、延べ 24,684 件の医療的ケアを必要としており、一人で複数の医療的ケアを必要とする幼児児童生徒が多い状況である。特別支援学校幼児部と公立通常小・中学校における行為別の延べ件数は、たんの吸引等呼吸器関係ケアが 67.8%、経管栄養等栄養関係ケアが 23.8%、導尿が 3.3%、その他が 5.0%であった [4]。

○　暴力やネグレクトなどによる虐待あるいは両親の疾患や障害などに起因して、家庭養育が困難で、児童養護施設に入所している児童数は 29,979 人(平成 25 年 2 月 1 日現在)で、そのうち 59.5%の児童が虐待を受けた経験があり [5]、肢体不自由児施設に長期入園を必要とする肢体不自由児(重症心身障害児を含む)が増加している。

○　過去半世紀間に、医学・医療の進歩、医療・福祉体制の整備により、先天的疾患等により心身に重度で複合的な障害をもつ子どもの生命予後が改善され、在宅の重症障害児・者が増加し、在宅生活が困難な重症心身障害者は、重症心身障害児施設が生活の場となっている。

○　重症心身障害児・者の生命予後の改善に伴って、医療面では、思春期の成長・成熟に伴う体格や心身機能の変化への対応、加齢・高齢化に伴う、運動機能、呼吸・嚥下機能の低下への対応、生活習慣病対策などの課題が、福祉面では、在宅あるいは施設で生活を送るために、ライフステージの諸段階において多様な支援ニーズが生じている。

○　わが国は、障害の有無にかかわらず、国民が相互に人格と個性を尊重し支

えあう「共生社会」の実現に向け、各分野で取り組みが進められている。平成25年に策定された障害者基本計画（第３次）においても、「障害児支援の充実」が謳われており、肢体不自由児への多面的な支援の充実に取り組むことが求められている[1]。

○　近年、国連障害者権利条約の発効、障害者基本法改正、発達障害者支援法制定、児童福祉法改正、障害者自立支援法（障害者総合支援法）制定、教育基本法改正、バリアフリー法（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律）の制定などにより法令面での大きな進展がみられた。

○　「今後の障害児支援のあり方について（報告書）（平成26年7月16日　障害児支援のあり方に関する検討会）」では、今後の障害児支援が進むべき方向として、（１）地域における「縦横連携」を進めるための体制作り（２）「縦横連携」におけるライフステージごとの個別の支援の充実（３）継続的な医療支援等が必要な障害児のための医療・福祉の連携（４）個々のサービスの質の更なる確保が提言された[2]。

○　障害者基本計画（第３次）では、障害者の自立と社会参加の支援のための施策の一層の推進が図るものとされ、肢体不自由児をはじめとする障害がある子どもについては、生涯にわたり地域で充実した生活を送ることができる社会の実現が目標となっている[1]。

○　戦後70年、医療の進歩、社会福祉制度の発展により、療育環境は整備されたが、21世紀に入ってから、社会の少子高齢化、肢体不自由児の障害の重複・重症化、継続的に施設サービスが必要な成人の増加、社会参加促進による入園児童の減少、高次脳機能障害、発達障害など新たな障害の概念化などにより、肢体不自由児の持つ療育ニーズが多様化している。

○　肢体不自由児療育施設の入園児の減少、障害の重複・重度化、施設利用が必要な成人障害者の増加、障害モデルの医療モデルから社会モデルへの転換などに、旧来の療育施設の人的・物的資源により対応することは困難で、施設の運営環境が悪化している。

○　また、療育に関わる整形外科、小児科、リハビリテーション科医師、看護師等の確保と専門知識、技能の修得、向上が困難となっている。

○　社会の超高齢化は進行し、官民挙げて高齢者への総合的対策に取り組まれている。一方で、小児の先天性・発育性疾患の早期発見、早期治療を目的とした保健所での療育相談が縮小されている。心身に障害のある児･者の療育･生活支援サービスも、時代の科学を動員して、障害のある児・者への療育の充実・進歩とその提供体制の整備・発展に取り組まなければ、共生社会の実現が困難

となることが危惧される。

２．心身障害児総合医療療育センターの機能と果たしてきた役割

○　心身障害児総合医療療育センター（National Rehabilitation Center for Children with Disabilities: NRCCD）は、昭和17年の整肢療護園開設以来、幾余の曲折を経ながら、肢体が不自由な子ども･重症な心身障害がある子ども（以下、肢体不自由児）へのモデル的療育実践、療育に関係する人材育成、情報提供などの機能をもつわが国の中核的施設として位置づけられてきた。（資料１：日本肢体不自由児協会設立経緯等　社会福祉法人日本肢体不自由児協会）

○　心身障害児総合医療療育センターは、先天異常、疾病などに起因して障害をもち「発達支援」が必要な子ども達に、発達段階とライフステージに応じ、医療・福祉専門職が連携して、切れ目なく、一人ひとりの個性と能力に沿った包括的な支援を提供してきた。

○　その支援は、医療・看護を基盤として、機能の改善のためのリハビリテーション、心理的サポート、在宅生活支援、自宅生活が困難な児・者の入所生活支援、療育相談、家族支援、専門職研修、情報収集・提供、保育、教育、行政など関連機関との連携に及んでいる。

○　療育医療は、「療育の基盤を持つ医療」と「療育の基盤となる医療」とを柱としている。前者は、障害の原因となる疾患ならびに障害に特有な併存疾患と機能障害・活動制限、発達障害に対する病因・病態解明、診断・治療、看護、リハビリテーションなどを含む疾病・障害をターゲットとする包括的医療であり、であり、後者は、在宅生活、施設生活、保育、教育、社会参加などの活動が円滑に進むように健康を支える医療的ケアである。

○　近年、「発達障害児」への学問的、社会的理解が深まり、法律が整備され、多様な支援ニーズが認識され、支援体制の整備が進められている。心身障害児総合医療療育センターは、診断、リハビリテーション、相談、施設間連携などの地域の中核的発達障害児支援機関となっている。

○　心身障害児総合医療療育センターは、療育施設利用ニーズの変容、多様化、増大への対応に追われ、医療・福祉専門職が連携した通学的療育モデル（transdisciplinary approach）の進歩・発展、人材育成、サービス提供体制整備、研究などへの取り組みが遅れ、国の療育施設の中核としての役割を果たしきれていない状態にある。

Ⅱ．心身障害児総合医療療育センターの沿革と現状

１．日本肢体不自由児協会、心身障害児総合医療療育センターの沿革

○　高木憲次博士（東大名誉教授、整形外科学）が、各界からの寄金により、土地を取得し、昭和 17 年に整肢療護園を開設した。その土地と建物は、高木憲次博士を理事長とする財団法人整肢療護会が所有するものであったが、昭和 18 年に整肢療護園は日本医療団直轄運営となり、それに先立って整肢療護会は解散となった。昭和 20 年、戦災により施設の大部分が失われた。昭和 23 年、日本肢体不自由児協会が厚生省児童局に事務所を置いて設立され、そのもとで、整肢療護園が昭和 26 年に再建された。この時点で、整肢療護園は、国が建物設備を準備し、運営は日本肢体不自由児協会に委託された。

○　昭和 55 年、国際児童年を期に、両園を統合し外来療育部も設置し、心身障害児総合医療療育センターとなった。この時に英語名は国から、National Rehabilitation Center for Disabled Children　とされた。

○　平成 5 年、厚生省児童家庭局に「心身障害児総合医療療育センター将来構想検討会」が設置され、「21 世紀にふさわしい我が国の障害児医療・療育のナショナルセンターとしてのあり方」が検討され、総合的な医療、療育の専門機関として、すべての障害児の療育に十分応えられる専門医療の提供、心身障害児のモデル療育機関として、入所障害児・者の適切な処遇水準の確保、在宅障害児への支援機能の強化、障害児の療育に携わる専門職員の養成および海外協力事業、医療福祉機器の開発研究などを機能として積極的に充実強化する必要性が示された。（資料２：心身障害児総合医療療育センター将来構想検討会平成 5 年 5 月 19 日厚生省児童家庭局障害福祉課長発出通知書等）

2.心身障害児総合医療療育センターの現況

○　心身障害児総合医療療育センターは、社会福祉法人日本肢体不自由児協会が厚生労働省の委託を受けて運営する障害児支援施設であり、 整肢療護園（医療型障害児入所施設・療養介護施設）、むらさき愛育園（医療型障害児入所施設・療養介護施設）、外来療育部門（通園指導部門を含む）、研修・研究部門から構成され、医療・福祉サービスを提供している（表：心身障害児総合医療センターが提供するサービス等）。

心身障害児総合医療療育センターが提供するサービス等

１．多様なニーズを有する 軽度～重度の「肢体不自由児」への、外来・入所での幅の広い支援
リハビリテーション、整形外科手術－療育の基盤を持つ小児整形外科治療
ソーシャルスキル援助等の自立援助、心のケア等

２．重症心身障害児者の在宅療育支援、医療在宅が困難な場合の長期入所
外来診療・療育、通園、親子入園など療育援助入所・レスパイト入所などの短期入所援助、手術・リハビリテーション、一定範囲の緊急医療入院、長期入所

３．虐待による障害児、被虐待・家庭養育困難障害児への対応
外来での予防的対応（デイサービス、通園）、短期親子入所による母親支援、短期入所、家庭養育困難例の長期入所

４．「発達障害」児、知的障害児への、医学的な面を含む外来での支援、療育
ST、OT、心理士、小児神経科医、小児精神科医などマンパワーを生かして

５．それぞれの面での、地域支援、地域機関バックアップ・サポート（地域通園通所施設、学校、保育園等）の機能

６．研修・研究機能

１）外来療育部門

○　診療科は整形外科、小児科、小児精神科、リハビリテーション科、歯科である。平成 26 年度の外来新患数は 1055 名、再来受診者数は、1 日平均 350 名（再診 216 名、リハビリテーション平均 140 名）であった。

○　受診児（者）の主な診断名・状態は、脳性麻痺、二分脊椎、小児整形外科疾患、重症心身障害児者、発達障害（自閉スペクトラム障害）である。超重症児（者）、準超重症児（者）約 400 名を含む要医療在宅重症児・者が多数で、そのうち在宅人工呼吸器利用児（者）が約 40 名、気管切開児（者）が約 50 名を占めている。

２）入所部門

（1）整肢療護園（定床 98）は、3 病棟からなる。有期限入所児（短期入所は除く）の年間退園数は（平成 25 年度）513 名、（平成 26 年度）511 名であった。

①　Ⅰ病棟（定床 36）：手術治療・術後リハビリテーション、集中リハビリテーションが行われる。年間手術件数は、（平成 25 年）180 件、（平成 26 年）200 件であった。短期入所も少数受入れている。

②　Ⅱ病棟（定床 36）：ネグレクト、被虐待による入所、あるいは保護者不在、保護者の心身の疾病等による家庭養育困難児が大半を占めている。「措置」入所が、平成 27 年度 23 名である。短期入所（ショートステイ）が 1～2 名。

③　Ⅲ病棟（定床 26）：親子入園プログラム、在宅人工呼吸器治療の導入、定期的在宅人工呼吸器治療管理、短期入所（ショートステイ）など在宅療育支援を主とした病棟である。ほとんどが重症心身障害児で、平成 25 年度の利用

者は延べ 621 名、平成 26 年度の利用者延べ 670 名であり、そのうち、被虐待、家庭養育困難の長期入所幼児は 6 名（措置入所 4 名）であった。

(2) むらさき愛育園： 長期入所の重症心身障害児（者）が医療ケアを受け、生活しており、常に満床状態（長期 130 床、短期 2 床）である。超重症・準超重症児者が占める割合は長期入所では 34%（44 名）である。

３）研修、研究活動

(1) 療育研修所における講習会

厚労省の委託補助のもとに、療育にかかわる医療・福祉専門職の研修会を開催している。平成 25 年度は、開催 22 回、受講者数 1,223 名、平成 26 年度は開催 25 回、受講者数 1,379 名であった。平成 26 年度に実施したプログラム数（重複あり）は、摂食指導にかかわる職員を対象としたものが 9、看護師を対象としたものが 7、療育職員（保育士、指導員、介護士）を対象としたものが 4、医師を対象としたもの、薬剤師を対象としたもの、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を対象としたもの、心理担当職員を対象としたものが各 1 であった。（資料３：平成 26 年度各種療育講習会　実施状況）

(2) 研究活動、学会や研修会等での講演・講義

平成 26 年度の、職員の学会、研究会などでの研究発表は 44 件、学会、研修会などでの講演・講義は 100 件、論文、著作物は 54 編であった。（資料４：学会・講習会・研修会　講演、講義　研究発表、論文、著作　業績一覧）

４）地域連携支援活動

(1) 医師派遣：特別支援学校（校医、医療的ケア指導医など）、通常学校の特別支援学級（アドバイザー）など 17 校、成人通所施設（医療的ケア指導）9 施設に、医師が出張し、指導、助言を行っている。

(2) 研修会：板橋区医師会等と連携して、医師と看護師対象の実技研修を含めた小児・重症心身障害児在宅医療研修会を開催している。

(3) 行政事業への参画：板橋区地域連携ネットワークの構築に参画した。

(4) 発達支援地域連携活動：板橋区子ども発達支援センター事業（日本肢体不自由児協会が受託）、保育園巡回指導相談、要支援児フォローアップ保健所検診、保健師及び保母教師などを対象とした研修会に板橋区医師会や周辺の大学病院医師と連携し参加している。

５）財政状況

肢体不自由児施設長期入所児の減少、多様化するニーズへの対応と入所児・者の重度化へ対応するためのスタッフ配置の必要性（相談事業や心理担当者の配置増、入所部門職員配置増）、入院・入所関係の、診療報酬、障害福祉サービ

ス給付費の抑制等から、経営面の不採算性が大きくなり、さらに、委託費の減少により、財政状況は厳しくなっている。(現在、国からの委託費は、研修研究事業への定額委託補助となっている。)

○　社会の構造変化、医学の進歩、医療の発展、障害概念の進化、社会福祉制度の整備などにより療育環境の変化による、入園児の減少、在宅児・者の増加、支援ニーズの多様化、複雑化により、運営体制の見直しが必要となっている。

○　これまでに、マンパワーを生かし、「発達障害」児への療育支援を行うなどして、障害のある子どもの支援ニーズに応える努力をしてきたが、経営環境は厳しい。

○　このような状況の中で、肢体不自由児への療育機能をどのように維持・発展させていくかが問題である。

Ⅲ.日本肢体不自由児協会・心身障害児総合医療療育センターの今後の在り方

○　日本肢体不自由児協会・心身障害児総合医療療育センターが、次代の共生社会の構築にむけて、国の肢体不自由児（重症心身障害児も含む）療育の中核的施設としての役割を果たすために、今後の在り方について、以下、提言する。

１．使命

高木憲次博士が提唱された療育の理念を継いで発展させ、障害の有無にかかわらず国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生社会」実現に努めることを使命とする。

２．基本的役割

心身障害児総合医療療育センターは、厚生労働省と緊密な関係のもとに、関連機関と連携し、我が国の療育を先導する役割を果たす。

３．先進的療育拠点として持つべき機能

心身障害児総合医療療育センターが持つべき機能は、肢体不自由（重症心身障害を含む）児を中心とした障害のある児・者への、療育医療、入所支援、児童発達支援(通所支援、保育所等訪問支援、相談支援)、地域生活支援の提供、ならびに、これらに関する研究、研修、情報活動である。

1）先進的療育医療

先進医療の成果を取り入れ、機器、設備を更新し、「療育の基盤となる医療」と「療育の基盤を持つ医療」の成果を検証し、発展させるとともに、先端技術の臨床応用を行う。

2)入所支援

(1) 有期限入所支援

「療育の基盤を持つ医療」の特色を生かした整形外科治療・リハビリテーション、障害児の子育て支援、在宅生活への移行と維持のための親子入所、レスパイト・ショートステイなどの入所支援、被虐待障害児の養護的入所など、個別のニーズを満たす入所支援サービスを提供する。

(2)長期入所支援

長期入所児・者にはライフステージに応じた課題を検討し、個々の多様なニーズに丁寧に応え、生活の質を高める支援サービスを提供する。

3) 相談支援

在宅生活、地域生活への移行や、その安定的な維持のために、高い専門性を持つ相談員による相談支援を行う。

4) 地域施設訪問支援

地域通所施設、保育所、学校など、肢体不自由（重症心身障害を含む）児・者、発達障害児の支援を行う施設に、医療、医療的ケア、リハビリテーション、生活技能支援などに関する専門的知識を伝え、支援技能を伝授し、学校を含む地域の障害児支援事業を支援する。

5) 在宅支援

在宅障害児（者）の発達支援、健康管理、機能向上、および、母親家族の育児支援・養育能力向上、地域生活支援のために、外来と有期限入所での支援、相談支援、地域施設訪問支援を行うとともに、地域施設では対応が困難なケースへの、通所型支援を提供する。

6) 時代の科学を動員する研究

先端的研究の成果を取り入れた肢体不自由児の原因疾患、併存疾患の診断・治療、機能障害に対するリハビリテーション手法、活動制限の代償・補完手法、福祉機器の開発研究を行う。

重度肢体不自由・重症心身障害児・者、とく在宅医療を要する児・者の包括的な在宅地域生活支援成果を検証し、従来のプログラムの見直し、新しいプログラムの開発、評価を行い、普及を図る。

先天異常（先天奇形、先天性代謝異常症、骨系統疾患等)、脳性麻痺等の小児期発症の運動器疾患による肢体不自由児の各ライフステージでの医学的療育課題を検証し、包括的支援プログラムを開発し、普及を図る。

7) 専門職人材育成、研修

療育研修所の研修の充実を図るとともに、研修テーマに在宅生活支援を加え、重症心身障害児者への訪問看護・在宅医療、訪問リハビリテーションなどの担

当スタッフ、地域生活支援ヘルパー、重症心身障害児者相談支援事業担当者（コーディネーター）、学校看護師などを対象とした講習会を加えた研修を、国立障害者リハビリテーションセンター学院などとの協力のもとに行う。

人材育成、生涯学習、能力開発のために、臨床現場に、療育、障害児発達支援・在宅医療に関わる医師、看護師、理学療法士、作業療法士はじめ福祉専門職を受け入れる。

8）情報・文化・啓発活動

肢体不自由、発達障害に関する医療、福祉などに関する各種情報を収集し、療育関係者ならびに親・保護者に提供する。療育キャンプ、療育功労者の顕彰、絵画、写真展など、療育に関連する啓発・文化活動を継続、発展させる。

9）全国の肢体不自由児療育施設の中核的役割

全国肢体不自由児施設運営協議会、全国肢体不自由児療育研究大会などの活動を通じ、また、全国の医療型障害児入所施設（肢体不自由児・重症心身障害児施設）等の障害児支援施設や、全国重症心身障害福祉協会等の関係団体とも、共同・連携し、診療報酬・障害福祉サービス等報酬の改定の働きかけ、療育の質を高めるための研究事業の推進などにおいても、先導的役割を果たす。

Ⅳ．日本肢体不自由児協会・心身障害児総合医療療育センターの運営体制整備

○　日本肢体不自由児協会・心身障害児総合医療療育センターは、厚生労働省社会援護局障害福祉部が所管する施設として、モデル的療育の実践、人材育成、情報提供などに加え先端的臨床研究を行い、わが国における中核的療育施設として、心身障害のある子ども、親・保護者にやさしい療育、生涯にわたっての療育を、進化、発展させていく役割を担っていくことを全職員があらためて確認し、自己研鑽に心がけ、その任務の遂行に全力を傾注していかなければならない。

○　事業の継続・発展のためには、運営体制・機構の見直しが必要である。日本肢体不自由児協会と心身障害児総合医療療育センターとが一体となって組織の見直しを行い、専門家による経営診断を受けるなどして、経営基盤を固めて、事業の展開と運営が機能的、効率的に行われるようにすることが必要である。

○　現在の事業は、医療、入所支援、通所支援、相談支援、保育所等訪問支援などのサービス提供、研究、研修、情報の収集と提供など多岐にわたっている。障害児支援施設として、医療・福祉サービスの提供体制を整理して、部門ごとに管理責任体制を明確にし、管理職の管理研修、職員の生涯学習、接遇研修などの専門職としての能力開発を継続的に行い、我が国の障害児療育に果たすべ

き役割を再確認し、事業収入の増収を図り、財政状況を改善し、効率的運営により将来の発展基盤を固めるべきである。

○　一方で、機能が多岐にわたり過ぎるために、施設運営や基本的役割の遂行が困難になることを避ける必要がある。他の施設や地域の機関に委ねるべきものは委ね、本センターが担うべき内容を選択し、そこに重点を置いた機能を果たしていく方向を目指すべきである。

○　とくに、虐待や発達障害など、対象者も増大し、新たな法律も整備され行政としても体制整備が必要な分野については、本センターの負担が過大にならないように、東京都など関係自治体とも協議し、都内の対応できる施設の地域分担や、拠点とサテライトの重層的な整備などが進められるべきである。

○　研究、研修活動について、国立障害者リハビリテーションセンター、東京大学整形外科、小児科、リハビリテーション科、日本大学板橋病院、帝京大学病院などとの連携を深めていくことが望ましい。

○　定期的に、中期的および短期的な活動・運営計画を策定し、実施、成果の評価、計画の見直しの過程（PDCA: Plan Do, Check Action cycle）を繰り返すことが必要である。具体的には５年程度の中期目標とそれに基づき毎年の実施計画を立てること、その計画の達成度を確認しながら改善を繰り返すことが必要である。

○　PDCA サイクルを機能させるためには、毎年度ごとに事業の自己評価報告書をまとめるとともに、外部委員を入れた運営委員会を設置するなどして、事業業績評価を行い、結果を公表すべきである。

引用

1. 障害者基本計画（第３次）
   http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kihonkeikaku25.html
2. 今後の障害児支援のあり方について（報告書）（平成 26 年 7 月 16 日　障害児支援のあり方に関する検討会）http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000050945.html
3. 平成 26 年度全国特別支援学校（肢体不自由）児童生徒病因別調査（平成 26 年 5 月 1 日現在）全国特別支援学校肢体不自由教育校長会
4. 文部科学省「平成 26 年度特別支援学校等の医療的ケアに関する調査結果」
   http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/__icsFiles/afieldfile/2015/03/27/1356215_1.pdf
5. 児童養護施設入所児童等調査の結果(平成 25 年 2 月 1 日現在)
   http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000071187.html

資料

1. 日本肢体不自由児協会設立経緯等　社会福祉法人日本肢体不自由児協会
2. 心身障害児総合医療療育センター将来構想検討会平成 5 年 5 月 19 日厚生省児童家庭局障害福祉課長発出通知書等
3. 平成 26 年度各種療育講習会　実施状況
4. 学会・講習会・研修会 講演･講義、 研究発表、 論文･著作　業績一覧

肢体不自由児を中心とした療育の今日的課題及び心身障害児総合医療療育センターの今後の在り方についての検討会　報告書

資料１

日本肢体不自由児協会設立経緯等

社会福祉法人 日本肢体不自由児協会

目　　次

日本肢体不自由児協会設立経緯　・・・・・・・・・・・・・・　1
（整肢療護園と国との関係部分を中心に）

日本医療団史　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
（抜粋）

医師会、歯科医師会及び日本医療団
の解散等に関する法律　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

医師会、歯科医師会及び日本医療団
の解散等に関する法律の施行に関する政令　・・・・・・・・　１３

日本肢体不自由児協会設立経緯

（整肢療護園と国との関係部分を中心に）

日本肢体不自由児協会

１．日本肢体不自由児医治養護協会　設立　（昭和１０年７月２２日）
会長　永井柳太郎　副会長　男爵 穂積重遠　理事長　武部欣一
理事　栗山重信　都築正男　島薗順次郎　吉岡弥生
昭和１１年１２月 同協会解散

２．肢体不自由者療護園建設委員会　設立　（昭和１２年１２月２３日）
顧問　平沼騏一郎　委員長　河原田稼吉
委員　入沢達吉　穂積重遠　高木憲次　堤　直温　永井柳太郎　長与又郎　跡部忠生
男爵 荒木貞夫　侯爵 木戸幸一　三島　薫　篠田享二　末次信正

この委員会が「肢体不自由者療護園建設計画書」を作成　建設費 1.493 千円　収容人員 200 名
建設資金募集指揮　日銀総裁　池田成彬（その後、同氏が大蔵大臣就任に伴い大蔵大臣から日銀総裁となった結城豊太郎が就任）　昭和１３年５月２５日　会合
この結果、全国から１２５の一流会社より 1,750 千円の寄附が集まった。

昭和１２年秋に、傷病兵、傷痍軍人に対する取扱方針が決定され、傷病兵は軍自体で、傷痍軍人は臨時軍事援護部（１３年に傷兵保護院となる。）で一切を政府の手で取り扱うこととなった。
そこで、高木憲次博士が陸軍から出頭命令を受けたが、病気のため代理の堤常任委員が出頭したところ、陸軍省医務局神林衛生課長・中島医務課長より「傷病兵については政府において一切行うから、肢体不自由者療護園は一般の肢体不自由者を対象とすること、今後は傷病兵、傷痍軍人を対象とすることは一切発表しないこと。」という申渡しがあった。

これを受けて、肢体不自由者療護園建設委員会を発展的に解散し、以下の財団設立となる。

３．財団法人肢体不自由者療護園の設立
昭和１４年４月２２日厚生省東衛第１８６号によって設立認可
顧問　男爵 平沼騏一郎　　会長　侯爵 木戸幸一　副会長　結城豊太郎　長与又郎
理事長　高木憲次　　常務理事　堤　直温　三島　薫
理　事　男爵　穂積重遠　小倉　正恆　河原田稼吉　永井柳太郎　小林一三　跡部忠生
明石照男　男爵 荒木貞夫　篠田享二　末次信正　塩田広重　広瀬久忠
監　事　宝来市松　南条金雄　三好重道
常議員　井坂　孝　磯村豊太郎　石原　忍　服部玄三　男爵 大倉喜七郎　岡田文秀
米山梅吉　成瀬　達　村田省蔵　松木健次郎　児玉成介　藤山愛一郎
青木謙太郎　坂口康蔵
評議員　久田益太郎他８９名

木戸幸一が内大臣就任（昭和１５年６月）後は、会長に長与又郎が、同氏死去（昭和１６年８月）後は結城豊太郎が就任。結城氏が会長就任後の副会長にわが国外科学の泰斗 塩田広重氏が就任。
なお、この法人は、**昭和１６年４月１０日に「整肢療護会」と法人名を改称**した。

○　施設建設地の選定

高木理事長が理事会等において66,000㎡（２万坪）欲しいという発言に紆余曲折後結果的に博士の発言を受けれ、五島慶太（東急会長）の世話で大倉山と砧ゴルフ場が有力となったが、クレッペルハイムは東京に作るべき、ということで砧が残され、小田急電鉄が停車場を新設しても良い、ということだったが、この敷地の二軒の家所有者が断固反対したためここも頓挫した。

その時に、板橋区根ノ上町（現小茂根）に適当な土地がある、ということで適すると判断し、購入。この土地にも数軒の家があったが、快く譲ってくれた。６９，３００㎡(21,000坪)

近くには家もなく寂しいところであり、交通も池袋から東上線大山駅下車か、西武線江古田駅下車で、徒歩約２０～３０分という辺鄙なところであった。

○　昭和１７年５月５日　整肢療護園開園式

建物　木造６，６００㎡(2,000坪)

４．昭和１８年４月１日　整肢療護園が国策団体の日本医療団に吸収させられ、経営が日本医療団に移された。

これは、戦局の熾烈化に伴い、戦時体制下にあってわが国の医療機関を統合し、より有効に運営することを主目的として「日本医療団」が設立されたものである。医療機関の日本医療団への統合という政府の方針が示され、そのすべてが同医療団のものとなったものである。

そこで、この時期の財団法人整肢療護会理事長高杉新一郎が日本医療団副総裁となるが、この整肢療護園統合の条件は以下のとおりであった。

（１．整肢療護園所有の土地・建物・預金・現金等資産全部を無償で日本医療団へ寄附すること（資産目録添付）

（２．整肢療護園の現在職員は給与をそのままで総て日本医療団の職員とすること

（３．日本医療団は整肢療護園の事業、目的及びその将来計画を尊重すること

（４．整肢療護園の名称をそのまま継続すること

（５．目下設計中の病室二棟を日本医療団で可能速やかに実現すること

○　上記から、昭和１８年３月３１日　財団法人整肢療護会は解散

○　昭和１９年３月１２日　高木憲次博士は、中国の国民党の要職者汪兆銘が蒋介石の率いる重慶政府から逃れて名古屋大医学部付属病院に入院したために、その治療のために勅命で、名古屋に留まらざるを得なくなり、治療主任として１１月に汪兆銘が死亡するまで同地にて治療を行った。

○　昭和２０年３月９日の夜から１０日にかけて整肢療護園も空襲に遭い、診療棟、厚生棟等の主用建物が消失し、以後終戦までに６度の空襲に遭い、看護婦宿舎、汽缶室、ガレージを残すのみとなった。

○　終戦後職員が復員して来たことから、看護婦宿舎を改修して「療育の灯」を絶やすまいということで業務を続けていたが、その時は既に日本医療団では、この建物を東京都の乳児院にするために売却を決定していた。そこで高木博士の猛抗も通じず、日本医療団は取り合わなかった。

しかし、東京都の児童係長である医師（博士、後の都の衛生局長）が整肢療護園存続の必要性を認めて尽力し、東京都として同建物の買収を中止する旨を日本医療団へ伝達したことから、整肢療護園は建物の修理を行い、復興の途を作ることができた。

しかし、このときに日本医療団は何もせず放置し、医療器械あるいは薬品等の手当もせず、さらには職員の給与さえも出さないありさまであった。

○　一方、整肢療護園には 1,095,557 円の火災保険が掛けられていたが、916,157 円が保険会社より日本医療団へ支払われたので、高木博士の再三に亘る申し入れにも応ぜず、本部人件費に消費した。

そこで、博士は厚生省医務局長東竜太郎（後に東京都知事）に整肢療護園復興についての尽力を依頼。そこで、東医務局長の斡旋により、日本医療団保有の施設で整肢療護園が希望するものがあれば、整肢療護園復興のために提供することとなり、伊豆伊東市の白雲閣を整肢療護園の分園にすることに決定したことから、昭和２１年２月１日から分園開設に向け準備を行っていた。

５．昭和２１年１月８日　日本医療団の解散

しかし、昭和２１年１月８日の国の次官会議にて日本医療団の解散が決定したことから、同年２月１日に開園する準備を行っていた整肢療護園分園の開設が１月２５日に日本医療団総裁から中止の申渡しがあり、これも直前に頓挫した。

６．昭和２１年５月５日　残された看護婦宿舎を修繕し、整肢療護園業務を再開した。

７．高木憲次博士の考えと日本医療団の精算

高木憲次博士は、整肢療護園の復興に際しては、これを国立肢体不自由児施設にしたい、という強い考えを持っていた。しかし、整肢療護園は日本医療団の施設であり、財団法人整肢療護会の所有した土地・建物等は総て日本医療団へ寄附したことから、現に存する土地・建物総てが日本医療団所有となっている状況であり、かつ、この日本医療団が廃止に向けた精算過程に入っていた。

このような状況の中で、国立施設とするについてもこの日本医療団との関係をまず整理しなければならなかったのである。

８．昭和２３年９月３日　日本肢体不自由児協会設立

日本肢体不自由児協会の設立は厚生省会議室で、同協会の設立発起人会が行われ、取り敢えず任意団体として発足した。

会　　長　　高木憲次
理 事 長　　小島徳雄
常務理事　　堤　直温　近藤宏二
理　　事　　赤松常子　東竜太郎　新井英夫　岩原寅猪　片山良亮　木村忠二郎　小池文英
小山武夫　斎藤一男　齊藤文雄　坂元彦太郎　遠山　孝　原 泰一　松崎芳伸
山崎道子

事務所は厚生省児童局に置いた。

○　日本医療団の解散が決定し、その所有財産等の精算過程において、今般設立された日本肢体不自由児協会は、同医療団に対して「今回設立した当団体は、財団法人整肢療護会の後身法人である。そして、同財団はかつて所有していた総ての財産を貴医療団に強制的に寄附させられ、かつ、同財団は解散させられたものである。したがって、貴医療団が解散され、その所有財産を精算する場合には当然に今回設立した同財団の後身団体である日本肢体不自由児協会に同財団のかつての総ての財産を当協会にお返し願いたい。」と主張したのである。

しかし、日本医療団の精算団体からの回答は「日本肢体不自由児協会は財団法人整肢療護会の後身あるいは延長と見ることはできない。」ということであった。その理由は「財団法人整肢療護会が昭和１８年４月１日に日本医療団に吸収されたときに一端解散しているからである。」という主張で、

日本医療団としては、同医療団としての精算方式が定められているので、これを曲げることはできない、ということであった。

その精算方式とは「当該財産が元の所有者でない場合には時価によって買い戻す」というものであり、日本肢体不自由児協会は**「元の所有者ではない」**ということであった。しかし、日本肢体不自由児協会はその総ての財産を寄附させられているので、買い戻す財産は持ち合わせていないことは明かである。

９．昭和２６年１０月１日　かつて財団法人整肢療護会所有財産の処分

上記８．の問題はその後長く折衝が続き、結果的には日本医療団が解散するに際して、かつて財団法人整肢療護会が所有した財産（土地・建物）は国（厚生省）に寄附するが、それと同時に日本肢体不自由児協会にも若干の土地と現金を寄附する、という了解で一応の決着を見ることとなった（ここでの現金とはかつての火災保険金に相当するものということか？）。

日本医療団の財産は正式に昭和２６年１０月１日に厚生省へ移管された。

10.　整肢療護園復興に向けた動き

高木憲次博士は、国が肢体不自由児施設を設置し、自ら経営するよう国に求めていたが、終戦直後の国の実情から見ても公務員の増員は困難であり、整肢療護園を所管する児童局自体も廃止の憂き目にあった時代であるから。国立・国営という案は困難という状況であり、国立設置で運営は民間で、という案も浮上した。

国の実情から見て、最終結果では、国は施設・設備は準備するが、その経営を日本肢体不自由児協会に委託するということになったのである。

高木憲次博士としては、児童福祉法に規定されているように肢体不自由児事業を発展させることが法意であるから、肢体不自由児施設整肢療護園も当然に国が率先して経営すべきであり、これによってはじめて、全国的な啓蒙が可能になるはずであるという考えであった。またほとんど同時に発足した身体障害者更生指導所が国立国営であったからでもある。

11.　国立・国営の趣旨

高木憲次博士が拘った肢体不自由児施設の「国立設置・国立経営」ということの趣旨は「わが国の肢体不自由児事業を発展させるためには、まずその中心となるべき施設が必要である。その施設において療育とはいかなるものであるかを実際に行い、その結果によって世人を啓発するとともに、専門家をも養成して漸次全国各地にこの種の施設を設置して行くべき」というものであり、つまりは「モデル肢体不自由児施設の設置」ということの象徴として、その設置を国立・国営に拘ったのである。

12.　昭和２５年２月２８日　財団法人　日本肢体不自由児協会の設立

顧　　問　　林　穣治　一万田尚登　高橋竜太郎　石川一郎
参　　与　　葛西嘉資　高田正巳　田波幸男　木村忠二郎　松本征二
会　　長　　高木憲次
常務理事　　堤　直温　近藤宏二
理　　事　　岩原寅猪　片山良亮　斎藤一男　斎藤文男　中村元督　原　泰一　橋本竜伍
　　青木秀夫　我妻　栄

監　　事　　浜口雄彦　千金良宗三郎
評 議 員　　三木威勇治　水町四郎　名倉重雄　飯野三郎　水野祥太郎　稗田正虎　高橋信美

遠山　孝　松井　彰　井上なつゑ　小林　中　矢野一郎　檜垣文市　南崎雄七
勝俣　稔

３月２４日第一回理事会を厚生大臣別室にて開催した。

13. 社会福祉法人日本肢体不自由児協会の設立

昭和２６年３月２９日に成立し、同年６月１日から施行された旧社会福祉事業法（現社会福祉法）により、同法に基づき社会福祉事業を行うものはすべて以後社会福祉法人としなければならないことから、財団法人日本肢体不自由児協会では、昭和２７年５月１７日に厚生省より組織変更の認可を受けて、社会福祉法人日本肢体不自由児協会としての運営を開始し、今日に至っている。

14. 肢体不自由児施設整肢療護園に係る国からの運営委託

整肢療護園の国としての再建は、昭和２４年度にはじめて整備費が予算化され、３年ほど掛けて徐々に新たな建物を建設する、ということで、本館が昭和２６年１２月２６日に建設業者から厚生省へ引き渡され、翌２７年１月３０日に整肢療護園の開園式が行われた。

実際に国が肢体不自由児施設整肢療護園の運営を委託したのは、昭和２６年１０月１日となっており、同日付にて、国有財産の使用契約とともに、運営のための委託費交付要綱が示され、正式に社会福祉法人日本肢体不自由児協会として国が設置した肢体不自由児施設整肢療護園の運営委託を受けることとなり、以後今日までその運営が委託されてきたところである。

ただし、運営委託費については、平成１８年度終了をもって廃止され、平成１９年度からは、従来の委託費積算の一部である「研修研究事業」での委託経費となっている。

（注）　上記記述は、主に本会が刊行した「高木憲次　―人と業績　―」（昭和４２年発行）からの抜粋である。

上記記述に出された著名人（判明した方の肩書き）

青木謙太郎　名古屋商工会議所会頭
青木秀夫　　東大教授　理学博士（病理学）
明石照男　　（岡山県）実業家
赤松常子　　労働運動家　参議院議員
新井英夫　　作業療法科医師　松山大
荒木貞夫　　文部大臣
飯野三郎　　東北大整形外科教授
池田成彬　　慶應義塾卒　三井財閥の基礎を確立　日銀総裁　大蔵大臣　商工大臣
井坂　孝　　日本工業倶楽部理事長
石川一郎　　財界
石原　忍　　東大眼科教授
磯村豊太郎　貴族院議員　日本工業倶楽部会長　三井物産
一万田尚登　日銀総裁　大蔵大臣
井上なつゑ　日本看護協会初代会長
入沢達吉　　東大医学部長
岩原寅猪　　慶応大整形外科教授
大倉喜七郎　大倉財閥
岡田文秀　　厚生次官　（旧姓吉岡）
小倉正恆　　住友財閥総理事　　大蔵大臣
葛西嘉資　　厚生事務次官
片山良亮　　第２代慈恵医大整形外科教授
勝股　稔　　厚生省衛生局長　日本公衆衛生協会会長
木戸幸一　　内大臣　侯爵
木村忠二郎　　〃　　社会局長
小池文英　　厚生省児童局母子衛生課顧問　心身障害児総合医療療育センター初代所長・常務理事
小林　中　　日本開発銀行初代総裁
小林一三　　商工大臣　関西財界の巨頭
小山武夫　　中日新聞相談役
近藤宏二　　母子衛生課長　本会常務理事
齋藤一男　　日本整形学会会長
齊藤文雄　　母子愛育会 愛育研究所所長　小児科医
坂口康蔵　　東京警察病院初代院長
坂元彦太郎　文部省初等教育課長　　お茶の水大教授
佐野利三郎　社会局更生課長　東京都民生局国民年金部長
塩田広重　　東大医学部教授　日本医科大理事長
篠田享二　　整肢療護園職業訓練部長
末次信正　　内務大臣　海軍大将
高田正巳　　厚生事務次官　児童局長
高橋竜太郎　財界
武部欣一　　文部省普通学務局長　家政学院学長
田波幸男　　母子衛生課長　本会常務理事
堤　直温　　東大整形外科医局長　　整肢療護園医療部長
中村元督　　財界人

永井柳太郎　早大教授　拓務大臣　逓信大臣
長与又郎　　東大総長　学士院会員　病理学
名倉重雄　　名大名誉教授　初代整形外科教授　東京厚生年金病院名誉院長
成瀬　達　　日本生命社長
南条金雄　　池田成彬氏の後任　三井財閥
橋本竜伍　　厚生大臣
服部玄三　　服部時計店創業者の弟
原　泰一　　日本赤十字社副社長
林　蘐治　　厚生大臣　衆議院議長
檜垣文市　　安田火災海上保険会長
稗田正虎　　国立身体障害者更生指導所（国立身体障害者センター）勤務　鉄道弘済会調査役
平沼騏一郎　総理大臣
藤山愛一郎　衆議院議員
宝来市松　　日本興業銀行総裁
穂積重遠　　東大法学部長　貴族院議員　東宮大夫　最高裁判所判事　親族・相続法権威
松木健次郎　福岡商工会議所
松崎芳伸　　児童局企画課長
松本征二　　財団法人鉄道弘済会理事　社会局更生課長
三木威勇治　東大整形外科教授
水町四郎　　関東労災病院長
南崎雄七　　厚生省防疫課長
三好重道　　三菱石油社長
山崎道子　　衆議院議員
結城豊太郎　東大政治学科　大蔵大臣　日銀総裁　安田保善社専務理事　安田財閥の基礎を確立
米山梅吉　　三井銀行常務　東京ロータリークラブ初代会長　三井報恩会理事長
我妻　栄　　東大名誉教授　我が国民法学の権威

日本医療団史

（抜粋）

発行：１９７７（昭和５２）年１２月２２日
発行人：日本医療団代表清算人　久下　勝次

Ｐ８８

７　解散への動き（昭和２０年度―２）

終戦の頃から、日本医療団は財政的な困難に陥り、インフレの昂進と政府資金の貸出制限によって危機に直面していた。主務官庁である厚生省では、日本医療団財政の確立のために大蔵省その他関係方面と折衝を続け、その対策を練っていたが、２１年末、省議の結果、日本医療団を解散し、その所管の結核療養所を国営に移管することとし、他の一般病院についても大体その線に沿う方針が内定され、予算の大蔵省原案においても結核療養所国営移管についての措置が認められるところとなった。

Ｐ９７

日本医療団一般医療施設処理要綱（昭和２２年６月２６日医療制度審議会答申）

第一　方針

一　日本医療団に於て経営中の一般医療施設は特別の事情のあるものを除く外、同団の解散後に於ても公的医療施設として、その経営を継続すると共にその内容の充実向上を期すること。

二　日本医療団に於て経営中の一般医療施設の経営の移管については、なるべくこれを一括して処理することとし、特に診療所については、その母体となり中核となる総合病院と一体的に運営せられるやう考慮すること。

第二　要領

右方針に基き概ね左の如く処理するものとする。

一　現物出資、寄附若しくは買収にかかる施設であって出資、寄附若しくは売却に際して特別の条件があるもの又は借受施設については、夫々相手方と協議するとともに公的医療施設として存続することが必要であるかどうかを考慮した上適当な処理方法を決定すること。

二　前号以外の施設については、公的医療施設として存続することが必要であるかどうかを箇々につき決定すること。

三　前二号の決定に基き純粋に日本医療団の公的医療施設として残るものについては左の如く移管すること。

(一)　各都道府県及び大都市で日本医療団の一般医療施設を継承経営する医師があり且つその能力（特に事業能力 Professional　ability）を有すると認められるものに対し移管すること。

(二)　右により処理し得ない施設は国家財政の許す限り国に於て継承経営すること。

四　前号　(一)　により都道府県及び大都市に移管した施設の運営については、医療内容の向上、医療設備の充実整備、国民の医療費負担の軽減等に関する政府の医療行政の方針に合致協力せしめるため政府は直接又は厚生省医務局出張所を通じて当該都道府県又は市を指導すること。

五　従業員については、各施設に配置されている人員は当該施設の処理に準じて移管すること。
従業員の給与については、原則として移管当時の現給をもって移管すること。

六　一般医療施設として建設工事中のものについては一乃至三の方針に準じ処理すること。

七　特別の事由により前各号により難いものについては各々の実情に応じ具体的に措置を決定して差支えないこと。

Ｐ９９

解散に関する法律成立

昭和２２年９月１８日に参議院厚生委員会において（医師会、歯科医師会及び日本医療団の解散等に関する法律案の審議がはじまり）、一松定吉厚生大臣は次のとおり提案理由を説明している。

「･･･本年１月２４日の閣議においてこれを解散することに決定されたのであります。而して解散に伴う同園の事業措置につきましては、結核療養施設として適切なるものは、取敢えず全て本年４月１日を以て國営に移管され、その他の一般医療施設については、医療制度審議会において慎重討議の上、原則として國営又は府懸営に移管されることに処理方針が決定されたのであります。」

Ｐ１０２

「･･･日本医療団の解散後における結核療養所以外の病院、診療所の後始末をどうしたらよかろうかということを検討審議をして頂きました結果、日本医療団の一般病院及び診療所は原則としてこれを府縣又は大都市に移すこととしてはどうか。若し府縣、大都市にしてこれを引受ける意思もなく、或いは能力もないというような場合におきましては、國においてこれを引取る、という建前に相成りましたのであります。」

Ｐ１２０

「寄附物件の取扱に就て」

総第２０９号　昭和２３年１１月５日　日本医療団清算人　赤木朝治　厚生大臣殿

標記の件左記に依り取扱うことに御認可相成受度申請する。

記

一　寄附の際正式文書を以てした条件が附せられたものについてはその条件に従い処理する。但し、寄附者の承諾を得た場合は此の限りでない。

条件の解釈につき疑義あるものは、日本医療団精算監理委員会に附議して其の取扱を決定する。

二　正式文書を以て用途を指定し寄附せられたものについては左の様に取扱う。

⑴　指定せられた事項が不履行に終った場合及び履行したが未完成に終った場合に於て、無償返還することが適当と認められる特殊事情あるものについては日本医療団精算監理委員会に附議して其の取扱を決定する。　**（注）**上記のアンダーラインは本会が附したもの）

⑵　指定せられた事項が履行せられた場合及び履行はせられなかったが今後公的医療施設として継続履行される場合については無条件寄附と同様の取扱をする。

⑶　寄附の際条件が附されなかったものについては（無条件寄附物件）精算計画第五によって現物出資と同様の取扱とする。但し特殊事情のあるものについては精算結了の際に考慮することができる。

⑷　寄附の際正式の文書を以てした希望条件が附せられたものについては、その希望はできるだけ尊重する。但し公共団体（寄附者が公共団体の場合は上位の公共団体）より譲受希望があれば之に優先するが、寄附者との関係は日本医療団精算監理委員会に附議して其の取扱を決定する。

Ｐ１２７

３　医療施設の移譲

移譲終わる　　その後、３４年３月、南方同法援護会に対する土地の売却処分（後出）、**同じ３４年７月、現在は社会福祉法人である日本肢体不自由児協会が国の委託を受けて経営する整肢療護園の土地、建物等の国への寄附（昭和２１年整肢療護会から用途指定寄附されたものであるが、同法人は既に解散していたので日本医療団の無償貸付けにより、同じ趣旨で事業を委託により行っている国へ寄附）**で、日本医療団が所有していた医療施設等はすべて処分が終わった。

（注）太字・アンダーラインは本会が附した。

Ｐ１３４

日本医療団精算剰余金処分要領

４　処分の決定　(ﾛ)　処分案の作成　に基づく査定方針

査定方針

・・・このような援助金のほか、社会福祉法人同愛記念病院財団（前出）には、病院施設及び設備を寄附し、また同じ**社会福祉法人である日本肢体不自由児協会が国の委託を受けて日本医療団に引き続き経営している整肢療護園の土地及び建物等を国に寄附する**ほか、医療施設の整備のために行った援助（寄附）は次のとおりである。

同愛記念病院財団（同愛記念病院）（３０年４月～５２年３月）、土地建物等の返還寄附５３２，６４４，３６７円及び公的医療機関整備援助９，５００，０００円を含む）

国（整肢療護園）（３４年７月、土地建物等）１３９，９８９，９１５円

琉球政府（那覇病院）（３４年７月）３，０７６，０００円

日本肢体不自由児協会（３９年５月）１０，５００，０００円

同愛記念病院財団への寄附を現物返還とみても、**整肢療護園の土地、建物等**を含めて９億円余の精算剰余金が、医療の普及改善のために役立てられている。　**（注）**太字は本会が附した。

Ｐ１４３

７　多発した係争事件

訴訟続発

当時、土地建物等施設設備の日本医療団の買収に応じ、あるいはこれに対して寄附を行った者について、買戻しあるいは返還の特約を附さなかった（国のためという純粋さからのものが多かったといわれるが）ものもあり、これらの施設は定められた精算の方針に従って譲渡処分等に附された。しかし、正式に特約等を附した者については、当然であるがこれに応ずるなど、両者の間に不公平が生じた面もあった。更に、施設の買収に応じあるいは施設の寄附をした後解散した法人が戦後再発足したが、寄附行為や定款あるいは人的構成から同一とは認めることが困難なものもあって、譲渡申請に応じえなかったものもあり、そのような事情から、係争事件が多発した原因であると考えられる。

（注）アンダーラインは本会が附した。

このアンダーライン部分が本会にも該当するものと思われるが、提訴はしていない。

Ｐ１７８

解散時の病院一覧　昭和２２年１０月３１日

(ｲ) 本部直轄病院

所属別	名　　称	所　　在　　地	病床数	備　　考
本　部	中央病院	東京都本所区東両国	４０	
	横浜同愛病院	横浜市南区浦船町	８０	
	第一病院	東京都荏原区平塚５丁目	２７９	
	整肢療護園	**東京都板橋区根ノ上町**	**１５**	
計	４か所		４１４	

（注）板橋区**根ノ上町**は、その後住居表示が変わり、現在は板橋区**小茂根**となっている。

注　上記記述には文語体や誤字等があるが、そのまま掲載した。

医師会、歯科医師会及び日本医療団の解散等に関する法律

昭和２２年１０月３１日　法律第１２８号
（最終改正　28.3.5　法律第８号）

第１章　総　則

第 １ 条　医師会、歯科医師会及び日本医療団の解散に関する処置に関しては、この法律の定めるところによる。

第 ２ 条　この法律において、医師会とは、日本医師会及び都道府県医師会、歯科医師会とは、日本歯科医師顔及び都道府県歯科医師会をいう。

第２章　医師会及び歯科医師会の解散に関する処置

第 ３ 条　医師会及び歯科医師会は、これを解散する。

第 ４ 条　医師会及び歯科医師会は、精算の目的の範囲内においては、その精算の結了するまで、なお存続するものとみなす。

第 ５ 条　清算人は、医師会及び歯科医師会の各会長、副会長、専務理事又は理事のうちから、総会において、これを選任しなければならない。但し、補欠の清算人を選任し、又は清算人を増員しようとする場合には、他の者のうちから、これを選任することができる。

２　監督庁は、公益上必要があると認めるときは、清算人を解任することができる。

第 ６ 条　清算人は、精算方法及び財産処分について、総会の議決を経た後、監督庁の認可を受けなければならない。

第 ７ 条　監督庁は、医師会及び歯科医師会の精算の監督上必要があると認めるときは、清算事務及び財産の状況について清算人に報告を命じ、又は当該官吏吏員に検査をさせることができる。

２　監督庁は、前項の規定により当該官吏吏員に検査をさせるときは、その身分を示す証票を携帯させなければならない。

第 ８ 条　この法律に定めるものを除いては、医師会及び歯科医師会の解散及び精算に関するこの法律の規定の実施に関して必要な事項は、政令でこれを定める。

第３章　日本医療団の解散に関する処置

第 ９ 条　日本医療団は、これを解散する。

第１０条　日本医療団は、精算及び第１１条の規定による事業の目的の範囲内においては、その精算の結了するまで、なお存続するものとみなす。

第１１条　日本医療団は、解散後も、その精算の結了するまでは、現に行っている医療事業を継続して行うことができる。

第１２条　厚生大臣は、日本医療団の総裁、副総裁又は理事のうちから、清算人を選任しなければならない。

第１３条　清算人は、他の職業に従事してはならない。但し、厚生大臣の認可を受けたときは、この限りでない。

２　清算人は、厚生大臣の認可を受けたときに限り、自己又は第三者のために日本医療団と取引することが出来る。この場合には、民法第１０８条の規定を適用しない。

第１４条　清算人は、厚生大臣の定める精算計画に従って、精算を行わなければならない。

２　厚生大臣は、必要があると認めるときは、清算人に対して、精算に関して必要な事項を命ずることができる。

第１５条　政府は、国の行う医療事業の用に供するため特に必要があると認めるときは、政令の定めるところにより、日本医療団の所有する土地、建物その他施設及び物件を他に優先して

買い取ることができる。

第１６条　残余財産は、払い込んだ出資金額の割合に応じて、これを出資者に分配しなければならない。

２　前項の規定により分配する財産の額は、各出資者につき、その者の払い込んだ出資金額を超えてはならない。

３　前２項の規定の適用に当っては、国民医療法第３３条の規定により病院、診療所等の設備を出資した者であって、その設備の建設に当たり国庫の補助を受けた者については、その払い込んだ出資額から当該国庫補助金額を控除した金額をその払い込んだ出資金額とみなす。

第１６条の２　前条の規定により分配をした後において、なお残余財産がある場合においては、清算人は、日本医療団が目的としていた医療の普及に資するため、日本医療団から譲渡された医療機関及びその他の公的医療機関の整備のために、その残余財産を処分することができる。

２　前項の規定による残余財産の処分は、前条の規定による残余財産の分配の終了後１年以内に、これをしなければならない。

第１７条　清算人は、前二条の規定による残余財産の分配又は処分については、厚生大臣の認可を受けなければならない。

第１８条　第１６条の規定により分配をした後における残余財産で、第１６条の２の規定によって処分されないものは、国庫に帰属する。

第１９条　第５条第１項但書き及び第２項並びに第７条の規定は、日本医療団の精算に関しこれを準用する。但し、第５条第２項及び第７条中「監督庁」とあるのは「厚生大臣」と読み替えるものとする。

第２０条　日本医療団の解散及び精算に関する登記には、登録税を賦課しない。

第２１条　この法律に定めるものを除いては、第１１条の規定による事業の実施及び第１５条の規定により政府の買い取ったものの上に存する担保の処理に関し必要な事項、その他日本医療団の解散及び精算に関するこの法律の規定の実施に関して必要な事項は、政令でこれを定める。

第４章　罰　則

第２２条　第７条（第１９条において準用する場合を含む。）の規定による当該官吏吏員の検査を拒み、妨げ、又は忌避した者は、これを６箇月以下の懲役又は５百円以下の罰金に処する。

附　則

第２３条　この法律は、昭和２２年１１月１日から、これを施行する。但し、際２５条乃至第２７条の規定は、日本医療団の精算結了の登記のあった日の翌日から、これを施行する。

第２４条　国民医療法の一部を次のように改正する。　省略

第２５条　結核予防法の一部を次のように改正する。　省略

第２６条　登録税法の一部を次のように改正する。　省略

第２７条　印紙税法の一部を次のように改正する。　省略

医師会、歯科医師会及び日本医療団の解散等に関する法律の施行に関する政令

昭和２２年１０月３１日　政令第２３１号
（最終改正　28.3.5　法律第８号）

第１章　総　則

第１条　この政令において、医師会とは、日本医師会及び都道府県医師会、歯科医師会とは、日本歯科医師会及び都道府県歯科医師会をいう。

第２章　医師会及び歯科医師会の精算に関する規定

第２条　日本医師会及び日本歯科医師会の精算は、厚生大臣、都道府県医師会及び都道府県歯科医師会の精算は、所轄都道府県知事の監督に属する。

第３条　清算人は、精算が結了したときは、遅滞なく、その旨を監督庁に届け出なければならない。

２　監督庁は、前項の規定による届出があったときは、遅滞なく、医師会又は歯科医師会の精算が結了した旨を告示しなければならない。

第４条　民法第７８条乃至８１条の規定は、医師会及び歯科医師会の精算にこれを準用する。

第３章　日本医療団の解散及び精算に関する規定

第５条　厚生大臣は、日本医療団の解散の登記をその主たる事務所の所在地の登記所に嘱託しなければならない。

第６条　清算人は、就任の後遅滞なく、日本医療団の財産の現況を調査して、財産目録及び貸借対照表を作り、これを厚生大臣に提出してその承認を受けなければならない。

第７条　清算人は、左に掲げる行為をするときには、厚生大臣の認可を受けなければならない。

一　日本医療団の財産を処分すること。

二　訴を提起すること。

三　和解及び仲裁契約をすること。

四　権利を放棄すること。

２　清算人が前項の規定に違反したときでも、日本医療団は、善意の第三者に対して、その責に任ずる。

第８条　政府は、昭和２２年法律第１２８号（医師会、歯科医師会及び日本医療団の解散等に関する法律。以下法という。）第１５条第１項の規定によって日本医療団の所有する土地、建物その他の施設及び物件を買い取ろうとするときは、同項の規定によってする旨を明示して、買取の申出をしなければならない。

２　日本医療団は、左の各号の一に該当する場合でなければ、第１項の規定による買取の申出を拒絶することができない。

一　買取価格が不当に低廉である場合。

二　政府の買い取ろうとする物が日本医療団の精算の遂行に欠くことのできないものである場合。

第９条　政府は、法第１５条第１項の規定によって買い取った物の上に知れた担保権の存する場合においては、その買取代金を供託しなければならない。

２　担保権は、前項の規定による供託に対しても。その権利を行うことができる。

第１０条　清算事務が終わったときは、清算人は、遅滞なく、決算報告書を作り、これを厚生大臣に提出してその認可を受けなければならない。

２　前項の場合に於いては、清算人は、日本医療団の帳簿並びにその業務及び精算に関する重要書類を厚生大臣に提出しなければならない。

第１１条　精算が結了したときは、清算人は、前条第１項の認可があった後２週間以内に、主たる事務所の所在地において、精算結了の登記をしなければならない。

第１２条　解散の登記を除いて、日本医療団の登記は、清算人の申請によって、これをする。

第１３条　民法第７８条乃至第８１条、商法第１２３条第２項、第３項、第１２５条、第１２８条、第１３１条、第２５４条第２項、第２６６条及び第４２１条並びに非訟事件手続法第１７６条及び第１７７条第２項の規定は、日本医療団の精算にこれを準用する。この場合において、商法第１２５条第４項及び第４２３条第２項中「裁判所」とあるのは、「厚生大臣」と読み替えるものとする。

第１４条　日本医療団精算監理委員会は、厚生大臣の監督に属し、その諮問に応じて、法第１４条第１項の精算計画、法第１５条第１項の規定による買取及び買取の条件、日本医療団の財産の評価その他日本医療団の精算に関する重要事項を調査審議する。

第１５条　委員会は、会長１人及び２０人以内でこれを組織する。

２　会長及び委員は、関係各庁の１級又は２級の官吏、国民医療法第３３条の規定による出資者、日本医療団の債権者及び学識経験のある者の中から、厚生大臣の申出により、内閣総理大臣が、これを命ずる。

第１６条　会長は、会務を総理する。会長に事故があるときは、予め会長の指名する委員が、その職務を代理する。

第１７条　委員会に幹事を置く。幹事は、関係各庁２級官吏及び学識経験のある者の中から、厚生大臣の申出により、内閣総理大臣が、これを命ずる。

２　幹事は、会長の指揮を受け、庶務を整理する。

第１８条　委員会に書記を置く。書記は、上司の指揮を受け、庶務に従事する。

第１９条　この政令に定めるものの外、委員会に関して必要な事項は、厚生大臣が、これを定める。

附　則

第２０条　この政令は、昭和２２年１１月１日から、これを施行する。但し、第２３条の規定は、日本医療団の精算結了の登記のあった日の翌日から、これを施行する。

第２１条　医師会及び歯科医師会令及び日本医療団令は、これを廃止する。

２　医師会又は歯科医師会の精算並びに日本医療団の解散及び精算及び法第１１条の規定による事業の実施に関しては、旧令は、前項の規定施行後も、なおその効力を有する。

第２２条　国民医療法施行令の一部を次のように改正する。　省略

第２３条　結核予防法施行令の一部を次のように改正する。　省略

注　上記法律・政令の条文には誤字あるいは表現方法に誤り等があると思われるが、原文のまま掲載した。

肢体不自由児を中心とした療育の今日的課題及び心身障害児総合医療療育センターの今後の在り方についての検討会　報告書

資料２

心身障害児総合医療療育センター将来構想検討会
平成５年５月19日厚生省児童家庭局障害福祉課長発出通知書等

児障第３０号
平成５年５月１９日

殿

厚生省児童家庭局障害福祉課長

心身障害児総合医療療育センター将来構想検討会の開催について

標記の会議を下記のとおり開催しますので、御出席くださるようお願いします。

記

１　日　時　　平成５年５月２８日（金）
　　１７：００～２０：３０

２　場　所　　『キャッスル』
　　電話：０３－３５０６－５０７０
　　千代田区内幸町２－１－１　飯野ビル　９Ｆ

〔備考〕連絡先：厚生省児童家庭局障害福祉課コロニー係
　　電　話：　０３－３５０３－１７１１　（内線３１５８）

心身障害児総合医療療育センター将来構想検討会

１．趣旨

日本で最初の肢体不自由児施設として発足して以来、半世紀が経過する中で、昭和４２年に重症心身障害児施設の設置、昭和５５年に検査、外来訓練等の部門の充実等一部手直しが図られてきたが、現在、施設の老朽化のみならず、社会の変化、障害児の状況等によりセンターに求められる機能が大きく変化してきているところである。

そこで、２１世紀にふさわしいわが国の小児を中心とした障害児医療・療育のナショナルセンターとしてのあり方を検討するものである。

２．メンバー

青島　　弾（保健医療局国立病院部経営指導課建築専門官）
有馬　正高（国立精神・神経センター武蔵病院長）
鴨下　重彦（東京大学医学部小児科学教室教授）
北浦　雅子（全国重症心身障害児（者）を守る会会長）
坂口　　亮（心身障害児総合医療療育センター所長）
津山　直一（日本肢体不自由児協会会長）
藤永　数江（島田療育センター所長）

３．運営

（１）児童家庭局の主催する検討会とする。
（２）平成５年５月から開始する。

４．検討項目

・心身障害児総合医療療育センターの将来へ向けての機能のあり方

心身障害児総合医療療育センターの施設整備について

１．心身障害児総合医療療育センターの経緯

心身障害児総合医療療育センターは、昭和２６年に肢体不自由児施設「整肢療護園」として開設され、昭和４２年に重症心身障害児施設「むらさき愛育園」を併設し、昭和５５年センター化されて今日に至っている。

「整肢療護園」は昭和１７年に財団法人整肢療護会により設立された経緯があり、創設期からみると５０年の歴史がある。

「むらさき愛育園」は昭和４２年、児童福祉法の改正により、新たに重症心身障害児施設が児童福祉施設として規定された時期に設置されたもので２５年経過している。

その間、わが国の障害児の医療・療育のメッカとして、専門医療の提供を行うとともに全国の心身障害児施設のモデル施設としての役割を果たしてきた。

２．心身障害児総合医療療育センターの現状

現在、厚生省の委託事業として、肢体不自由児施設「整肢療護園」及び重症心身障害児施設「むらさき愛育園」の運営、外来療育・相談判定事業、肢体不自由児療育技術者等の養成及び肢体不自由児療育研究事業を実施している。

１）肢体不自由児施設「整肢療護園」

近年、重度児が増加しており、濃厚な医療的ケアーに加え重症児と同様な看護、介護を要するケースが目立ってきた。車椅子を使用する入所児も多い。

一方、手術、リハビリテーションを目的とした短期間の入所、救急医療入所、緊急一時入所などの短期、有目的入所が多く、いわゆる児童福祉法による措置入所が減少している。

2）重症心身障害児施設「むらさき愛育園」

入所者は年々高齢化し、重度化し、在園期間も長期間となっているため成人に達した障害児が多くなっている。

重症児の医療については、過去において簡単な医療しかないと考えられていたが、現在は人工呼吸器、気管切開を初めとする濃厚治療も常識的な医療に含まれるようになり、常に複数台の人工呼吸器が作動している。さらに、各種の感染症への対応も必要となっている。

3）外来療育・相談判定事業

障害の多様化により、措置内容も発熱、脱水による点滴、けいれん重積への外来治療など拡大されてきている。

これら障害児に対する診断、相談判定及び治療訓練を実施し、特に脳性麻痺児の早期訓練療育を行っている。

4）肢体不自由児療育技術者等の養成

肢体不自由児施設及び重症心身障害児施設の職員、特に看護婦、保母、指導員、理学療法士、作業療法士を対象に現任訓練を行っている。

5）肢体不自由児療育研究

センター職員により年間１テーマについて療育研究を行っている。

3．心身障害児総合医療療育センターの施設整備の基本的考え方

障害児療育の対象の変化と、それに伴う障害児療育に求められている新たなニーズに応える総合的な医療、療育の専門機関として、全ての障害児の療育に十分応えられる専門医療の提供を行うと同時に、心身障害児のモデル的療育機関として、入所している障害児者の適切な処遇水準を確保し、さらに在宅の障害児に対する支援機能を強化する。

また、障害児の療育に携わる専門職員の養成及び海外協力事業、医療福祉機器の開発研究等の事業についても、これからのセンターの機能として積極的に充実強化を図ることが必要である。

そのため、長い歴史の中で必要に応じ部分的に整備され、総合的に運営管理することが困難となっているうえ、狭隘で老朽化している建物を整理し、近代的かつ機能的な建物として整備するが、いきいきとした明るい施設、緑の多い施設を目指すものとする。

1）入所部門の充実

入所部門に共通する課題として、入所児の年齢が高齢化し、重度化し、車椅子を使用するものも多く病室等が狭隘となっているため、病棟全体はゆとりのある面積を確保しなければならない。

さらに、入所期間が長期間となってきているため、生活の場としての建物構造上の配慮、各種の感染症対策への配慮が必要である。

また、母子入所及び救急医療入所、緊急一時入所、体験入所等の短期有目的入所を受け入れるための病室等も、それぞれの目的に応じた工夫が必要である。

2）在宅障害児への配慮

在宅療育への支援としては、外来療育機能の充実、訪問健診及び訪問看護事業の量的拡大、通園療育の充実及び保健所、養護学校などの関連施設に対する人材派遣等が考えられる。

これらの事業を行うため、補装具の調整室、各種相談室等の現在不足している室の整備を行う。なお、各診療科の診察室、相談室等については障害児のプライバシーの保護にも配意する。

さらに、障害児の重度化に伴う濃厚医療等のための集中医療体制を確立することも必要である。

3）専門職員の養成及び海外協力事業

現在の養成機能の充実を図るため、大研修室及び海外の研修生の受入等を考慮したゲストハウスの設置が必要である。

4）医療福祉機器の開発研究

療育の現場として、ユーザーサイドに立った医療福祉機器の開発及び制作を行うための施設設備についても検討する必要がある。

5）その他

職員の福利厚生施設の充実を図る。

肢体不自由児を中心とした療育の今日的課題及び心身障害児総合医療療育センターの今後の在り方についての検討会　報告書

資料３

心身障害児総合医療療育センター 療育職員研修所
平成 26 年度各種療育講習会実施状況

平成26年度　各種療育講習会　実施状況

	講習会名	受講対象者	講習期間	受講者数
1	重症心身障がい児・者に関わる薬剤師講習会	重症心身障がい児・者に関わる施設、病院、保険薬局に勤務する薬剤師	4月12日(土)～13日(日) 2日間	49
2	第91回　摂食指導（基礎・実習）講習会	各種療育施設等で摂食指導に携わる職員	4月22日(火)～23日(水) 2日間	43
3	第59回　重度・重症児(者)医療・療育(基礎)講習会	肢体不自由児・重症心身障害児(者)の療育に携わる看護職・療育職員（基礎的な内容になります。摂食指導が入ります）	5月13日(火)～16日(金) 4日間	64
4	第12回　障害児者のプール指導講習会	障害児(者)のプール指導に携わる職員	5月21日(水)～23日(金) 3日間	38
5	第76回　重症障害児(者)療育職員講習会	重症障害児(者)の療育に携わる療育職員（保育士・指導員・　介護士等）	6月2日(月)～6日(金) 5日間	63
6	第77回　重症障害児(者)・肢体不自由児等看護師講習会	重症障害児(者)・肢体不自由児の療育に携わる看護師(ある程度の経験を積んだ方が対象です)	6月16日(月)～20日(金) 5日間	57
7	第92回　摂食指導（基礎・実習）講習会	各種療育施設等で摂食指導に携わる職員	7月1日(火)～2日(水) 2日間	63
8	第24回　東京コース(2014年度) ボバースアプローチ8週間講習会	PT.OT.ST.MDで脳性麻痺児の治療・訓練に携わり今後もその分野に従事する職員	7月7日(月)～8月29日(金) 54日間	24
9	第9回　ペアレントトレーニング講習会	療育相談機関（療育施設・保健所・学校等）で発達障害児に関わる職員	8月26日(火)～27日(水) 2日間	41
10	第93回　摂食指導（基礎・実習）講習会	各種療育施設等で摂食指導に携わる職員	9月9日(火)～10日(水) 2日間	65
11	第42回　重症障害児(者)医療看護師講習会	障害児(者)とくに重症児（者）の医療・療育に携わる看護師　（経験3年以上、医療面の理解を深める）	9月19日(金)～21日(日) 3日間	63
12	第1回　障害児の摂食指導（応用）講習会	摂食指導(基礎・実習）講習会を修了された方が望ましい（簡易臨床評価、支援・訓練法、症例検討の内容になります）	9月30日(火) 1日間	63
13	第36回　看護指導者講習会	医療型障害児入所施設・療養介護施設の病棟師長・主任看護師	10月7日(火)～10日(金) 4日間	50
14	第83回　肢体不自由および重症心身障害の児童に関わる看護師講習会	肢体不自由・重症心身障害のある児童の療育に携わる看護師(ある程度の経験を積んだ方が対象です)	10月21日(火)～24日(金) 4日間	44
15	第94回　摂食指導（基礎・実習）講習会	各種療育施設等で摂食指導に携わる職員	11月11日(火)～12日(水) 2日間	64
16	第50回　肢体不自由児・重症障害児(者)等療育職員講習会	各種療育施設において肢体不自由児・重症障害児(者)の療育に携わる療育職員（保育士・指導員・介護士等）	11月17日(月)～21日(金) 5日間	59
17	第60回　重度・重症児(者)医療・療育(基礎)講習会	肢体不自由児・重症心身障害児(者)の療育に携わる看護職・療育職員（基礎的な内容になります。摂食指導が入ります）	12月2日(火)～5日(金) 4日間	65
18	第95回　摂食指導（基礎・実習）講習会	各種療育施設等で摂食指導に携わる職員	12月16日(火)～17日(水) 2日間	65
19	第43回　重症障害児(者)医療看護師講習会	障害児(者)とくに重症児（者）の医療・療育に携わる看護師　（経験3年以上、医療面の理解を深める）	1月15日(木)～17日(土) 3日間	65
20	第47回　幼児通園療育職員講習会	幼児通園療育に携わる療育職員(保育士・児童指導員等)	1月26日(月)～31日(金) 5日間	51
21	第20回　給食関係職員講習会	医療型障害児入所施設・療養介護施設及び関連施設に勤務し給食関係業務に携わる職員	2月5日(木)～7日(土) 3日間	45
22	第61回　重度・重症児(者)医療・療育(基礎)講習会	肢体不自由児・重症心身障害児(者)の療育に携わる看護職・療育職員(基礎的な内容になります。摂食指導が入ります)	2月17日(火)～20日(金) 4日間	65
23	第96回　摂食指導（基礎・実習）講習会	各種療育施設等で摂食指導に携わる職員	3月3日(火)～4日(水) 2日間	65
24	第44回　重症障害児（者）医療講習会	障害児(者)とくに重症児（者）の医療・療育に携わる医師	3月14日(土)～15日(日) 2日間	60
25	第2回　障害児の摂食指導（応用）講習会	摂食指導(基礎・実習）講習会を修了された方が望ましい（簡易臨床評価、支援・訓練法、症例検討の内容になります）	3月18日(水) 1日間	48
			総受講者数	1379

肢体不自由児を中心とした療育の今日的課題及び心身障害児総合医療療育センターの今後の在り方についての検討会　報告書

資料４

心身障害児総合医療療育センター

学会･講習会･研修会　講演、講義

研究発表

論文、著作

2012 年度～2017 年 9 月

2012年度　学会・研修会・講習会　講演・講義(当センター療育研修所での通常講習会の講義は除く)

講師名(所属)	学会・講習会・研修会名	テーマ	場所	期日
北住映二	第54回日本小児神経学会総会	医療的ケアの介護職等法制化以後の課題－東京都の学校における状況などからの課題	札幌	2012/5/17
北住映二	沖縄小児在宅医療・訪問看護研修会	重い障がいのある子どもの、発達・成長を支える医療的ケア	那覇	2012/6/9
北住映二	東京都特別支援学校教員看護師研修会	医療的ケアと健康管理の実際的諸問題と注意点	東京	2012/8/9
北住映二	第9回日本小児神経学会医療的ケア研修セミナー	総論、呼吸障害	仙台	2012/11/3
北住映二	第38回日本重症心身障害学会	基調講演「支える医療」としての重症心身障害児者医療	東京	2012/9/29
北住映二	第15回　日本在宅医学会　シンポジウム－小児在宅医療の展望	医療的支援を日常的に要する重症心身障害児の在宅生活支援における、医療・福祉・教育の課題	松山	2013/3/30
米山　明(小児科)	全国児童発達支援協議会施設長会	障害児の虐待について	横浜	2012/6/2
米山　明(小児科)	島田療育センター研修会	児童虐待と障害児虐待	島田療育センター	2013/3/13
中谷勝利(小児科)	東京都在宅重症心身障害児(者)訪問事業従事者研修	重症心身障害児(者)の医学的理解　重症心身障害児(者)に合併する症状(呼吸障害を中心に)	東京	2012/6/4
中谷勝利(小児科)	埼玉県看護協会研修	在宅支援を必要とする小児の理解　重症心身障害児(者)に見られる合併症一 麻痺・筋緊張異常・変形に伴う、呼吸障害や嚥下・消化管障害など一	埼玉県看護協会	2012/9/2
中谷勝利(小児科)	全国重心障害児・者を守る会　重症心身障害児在宅療育支援センター現任研修	18トリソミーの重症心身障害児における在宅療育について	東京都福祉保健局大久保庁舎	2012/10/26
中谷勝利(小児科)	埼玉県看護協会研修	在宅支援を必要とする小児の理解　重症心身障害児(者)に見られる合併症一 麻痺・筋緊張異常・変形に伴う、呼吸障害や嚥下・消化管障害など一	埼玉県看護協会	2012/11/11
中谷勝利(小児科)	東京都障害者通所活動施設職員研修会	日常的支援の中の医療的ケアを学ぶ　その内容と対応について －胃瘻造設術や気管切開術が必要となる経緯とその支援－	国立オリンピック記念青少年総合センター	2012/12/5
長瀬美香(小児科)	都立小児総合医療療育センター ペアレントトレーニング勉強会	ペアレントトレーニング	都立小児総合医療センター	2012年5月・6月・7月・9月
長瀬美香(小児科)	全国児童発達支援協議会　全国施設長研修会	肢体不自由児施設(現医療型障害児施設)と児童養護施設における「ペアレントトレーニング」の手法を取り入れた入所児童への取り組み	東京	2012/6/2
長瀬美香(小児科)	群馬県医師会小児保健に関する講演会	発達障害児への親支援プログラム-ペアレントトレーニングの実際一	群馬	2012/10/18
長瀬美香(小児科)	志村健康福祉センター	子どもをやる気にさせる子育てのコツ　ペアレントトレーニングの手法を用いて	板橋区志村健康福祉センター	2012/10/2
長瀬美香(小児科)	東横恵愛病院研修会	ペアレントトレーニングの実際	東横恵愛病院	2012/11/9
長瀬美香(小児科)	平成24年度ヘルスボランティア育成支援講演会	「地域で子どもを育てる」ペアレントトレーニングの手法を用いた子どもたちへの肯定的な対応について	松戸市中央保健福祉センター	2013/2/22
後藤和恵(看護師)	HPSの視点と先進スキルで看護師が行う効果的プレパレーション	看護師が行うプレパレーション　子どもの優しい医療を目指して	日総研	2012/8/12
金子断行、 松村伸次(PT)	日本理学療法士協会講習会	脳性麻痺の評価と治療	心身障害児総合療育センター	2012/12/17-21
直井富美子(PT)	特定非営利活動法人　地域ケアさぽーと研究会	看護師(特別支援学校)スキルアップ講習会	オリンピック記念青少年総合センター	2012/8/3
直井富美子(PT)	関西看護ケア研究会	重症心身障害児の生活支援	大田区産業プラザPio	2013/3/24
増渕順恵(PT)	日本理学療法士協会主催理学療法士講習会	ボバース概念に基づく脳性麻痺児の評価と治療	順天堂大学	2012/9/15
増渕順恵(PT)	日本理学療法士協会主催理学療法士講習会	ボバース概念に基づく脳性麻痺児の評価と治療	心身障害児総合	2012/12/17
金子断行(PT)	多摩地区脳性麻痺研究会研修会	脳性麻痺症例検討会	都立北療育医療センター	2012/6/23
金子断行(PT)	宮崎県理学療法士会小児研修会	重症心身障害に対する姿勢コントロールと治療	宮崎県立こども療育センター	2012/10/13-14
金子断行(PT)	別府発達医療センター研修会	重い障害をもつ子どもの治療	別府発達医療センター	2013/2/10-11
金子断行(PT)	日本ボバース研究会北陸ブロック小児研修会	正常発達と脳性麻痺の治療	福井県こども療育センター	2013/2/23
金子断行(PT)	浜松市発達医療総合福祉センター外部研修会	広汎性発達障害児の治療	浜松市発達医療総合福祉センター	2013/2/27
金子断行(PT)	栃木ボバース研究会小児研修会	二足直立を目指した姿勢コントロールの発達	とちぎリハビリテーションセンター	2013/3/9
佐々木清子(OT)	板橋区子ども家庭部保育サービス課	保育園職員研修	板橋	2012/5/9.
佐々木清子(OT)	日本感覚統合学会講師	日本感覚統合学会講習会Bコース講師、	東京	2012/8/1
佐々木清子(OT)	日本感覚統合学会	日本感覚統合学会講習会:評価実習講師、「体性感覚系の検査」講義	熊本	2012/8/1
杉本　恵子(ST)	板橋区子ども発達支援センター　親支援事業	ことばを育てるかかわり方の教室	日本肢体不自由児協会	2012/5/9
杉本　恵子(ST)	板橋区子ども発達支援センター　支援者研修事業	ことばを育てるかかわり方の教室	心身障害児総合医療療育センター	2012/10/19
田中伸二(ST)	平成24年度北区難聴言語障害学級入級相談会講師	入級相談審査	北区王子・赤羽小学校	2012/10/2－4
三浦幸子(心理)	東京都訪問看護師育成研修	重症心身障害児(者)と共に生きる―親の気持ちに添った支援―	東京	2012/6/5
三浦幸子(心理)	東京都立よつぎ療育園研修会	重症心身障害児者とその親(特に母親)の心の理解と家族への支援	東京	2012/7/20
三浦幸子(心理)	母子愛育会総合母子保健センター＜地域母子保健4＞	乳幼児期に見られる諸問題　関わりの難しい親子の対応	東京	2012/7/26
三浦幸子(心理)	東京都立大泉特別支援学校理解促進研修会	障害のある児童・生徒の障害支援について考える	東京	2012/8/24
三浦幸子(心理)	墨田区手をつなぐ親の会両親大学	「発達障害」の理解を深め支えるために	東京	2012/9/28
三浦幸子(心理)	すみだ福祉保健センターみつばち園保護者勉強会	子どもの‘かかわる力’の成長について	東京	2012/10/31
三浦幸子(心理)	浜松市発達医療総合福祉センター相談支援事業所シグナル講演会	重度障害児(者)のこころの理解と家族支援	静岡	2013/3/2
三浦幸子(心理)	沖縄県子育て介護をしている親と子どもの支援事業	子育て介護をしている支援者向けセミナー	沖縄	2013/3/17
三間直子(心理)	練馬区学校保健部会研修	発達に気がかりのあるお子さんへの理解と対応(発達障害を中心に)	東京	2012/8/1
荒木千鶴子(心理)	熊野地区民生・児童委員協議会	「発達障害」の理解と支援	東京	2012/5/18
荒木千鶴子(心理)	板橋区子ども発達支援センター支援者研修	気になる行動の理解と対応の仕方	東京	2012/8/22

2013年度　学会・研修会・講習会　講演・講義(当センター療育研修所での通常講習会の講義は除く)

講師名(所属)	学会・講習会・研修会名	テーマ	場所	期日
北住映二	第116回日本小児科学会　シンポジウムーわが国の小児在宅医療の課題と展望	重症心身障害児の在宅生活支援と在宅医療	広島	2013/4/20
北住映二	第8回重い障害のある方のケア研修会	呼吸障害ー病態の理解、姿勢管理、エアウェイ、痰への対応、吸引、酸素療法、気管切開　など	仙台	2013/5/18
北住映二	第55回日本小児神経学会総会	介護保険法等改正後の医療的ケア児(者)の支援ー学齢期の今後の課題	大分	2013/5/31
北住映二	第7回全国看護師(特別支援学校)スキルアップ講習会	医療的ケアの必要な子どもの救急時・準救急時の対応	東京	2013/8/1
北住映二	第10回日本小児神経学会医療的ケア研修セミナー	総論(制度論)、呼吸障害への対応	松本	2013/10/26
北住映二	第58回日本未熟児新生児学会サテライトプログラム　第32回ハイリスク児フォローアップ研究会	脳性麻痺の早期徴候と発達経過ー自然な姿勢運動パターンの観察の重要性と優しい診察法	金沢	2013/12/1
米山　明(小児科)	全国盲ろう難聴児施設協議会　研修会	障害児の虐待について	東京	2013/6/3
米山　明(小児科)	第4回全国児童発達支援協議会研修会	重度重複障害と医療的ケア	北海道	2013/7/4
米山　明(小児科)	国立障害者リハビリテーションセンター研修会	発達障害の医学的理解と対応	埼玉県	2013/8/5
中谷勝利(小児科)	東京都在宅重症心身障害児(者)訪問事業従事者研修	重症心身障害児(者)の医学的理解　重症心身障害児(者)に合併する症状(消化管障害を中心に)	中野サンプラザ	2013/6/13
中谷勝利(小児科)	医療的ケアを必要とする児童・生徒に関する研修	準救急的状態への対応等	東京都特別支援教育推進室	2013/8/14
中谷勝利(小児科)	小児訪問看護研修会　～小児を支える訪問看護の実際～	小児の疾患と病態生理の理解 ― 嚥下を中心に ―	アクセス青山フォーラム	2013/9/21
中谷勝利(小児科)	埼玉県看護協会研修	在宅支援を必要とする小児の理解　重症心身障害児(者)に見られる合併症ー 麻痺・筋緊張異常・変形に伴う、呼吸障害や嚥下・消化管障害などー	埼玉県看護協会	2014/2/1
山口直人(小児科)	母乳育児支援を学ぶ20時間基礎セミナー	母乳育児支援一般	神奈川県立こども医療センター	2013.5.25, 6.15, 7.6, 8.10
山口直人(小児科)	第34 回母乳育児支援学習会 in 北九州	母乳育児における父親の役割と父親への支援を考える	北九州国際会議場	2013/6/30
山口直人(小児科)	母乳育児支援を学ぶ北関東教室2013	母乳で育つ赤ちゃんの発育とバリエーション	川口市立医療センタ	2013/11/16
山口直人(小児科)	第 15 回母乳育児学習会	パパもまきこむ母乳育児支援	神奈川県立こども医療センター	2013/11/22
山口直人(小児科)	母乳育児支援を学ぶ20時間基礎セミナーin沖縄	母乳育児支援一般	中頭病院	2013.11.23, 11.24, 12.14,
仁宮真紀(看護師)	東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修　第3期	看護倫理	都立府中療育センター	2013/8/22
仁宮真紀(看護師)	全国重心障害児・者を守る会　重症心身障害児在宅療育支援センター現任研修	看護倫理	中野サンプラザ	2013/11/25
芝田利生(PT)	埼玉リハビリテーション問題研究会	骨格・筋・関節の構造と肢体不自由児への支援の実際	埼玉県障害者交流センター	2013/8/3
直井富美子(PT)	関西看護ケア研究会	重症心身障害児の生活支援	秋葉原	2013/7/15
直井富美子(PT)	特定非営利活動法人　地域ケアさぽーと研究会	看護師(特別支援学校)スキルアップ講習会	東京	2013/8/2
直井富美子(PT)	関西看護ケア研究会	重症心身障害児の生活支援	大田区産業プラザPio	2013/12/7
金子断行(PT)	多摩地区脳性まひ研究会研修会	脳性麻痺の姿勢制御と臨床推論	都立北医療療育センター	2013/5/11-12
金子断行(PT)	岐阜こども研究会研修会	脳性麻痺の発達障害	岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター	2013/11/5
金子断行(PT)	日本ボバース研究会千葉ブロック研修会	アテトーゼ児の治療と評価	船橋二和病院	2013/11/8
金子断行(PT)	長崎ボバース研究会小児講習会	重症心身障害児・者の呼吸治療	長崎県立こども医療福祉センター	2013/12/7-8
金子断行(PT)	浜松市発達医療総合福祉センター外部研修会	脳性麻痺の姿勢制御と治療	浜松市発達医療総合福祉センター	2014/1/29
金子断行(PT)	熊本大学医学部重症心身障がい学寄附講座研修会	重症心身障害児・者の呼吸療法	熊本大学遺伝子研究センター	2014/2/21
佐々木清子(OT)	福井県こども療育センター	重症心身障害児の作業療法	福井	2013,6,15
佐々木清子(OT)	日本感覚統合学会講師	日本感覚統合学会講習会Bコース講師、	埼玉	2013,8
児玉妙子(OT)	二分脊椎の作業療法	小児・発達期の包括的アプローチ	文光堂	2013.12
杉本　恵子(ST)	板橋区子ども発達支援センター　親支援事業	ことばの発達の理解とことばを育てる関わり方の教室	日本肢体不自由児協会	2013/10/18
杉本　恵子(ST)	板橋区子ども発達支援センター　支援者研修事業	発達障害の特性に配慮したコミュニケーション支援	板橋区医師会病院	2013/11/28
柄田祈久子(ST)	板橋区子ども発達支援センター　親支援事業	ことばを育てるかかわり方の教室	日本肢体不自由児協会	2013/5/27
柄田祈久子(ST)	板橋区子ども発達支援センター　支援者研修事業	発達障がいの特性に配慮したコミュニケーション支援	心身障害児総合医療療育センター	2013/11/20
田中伸二(ST)	平成25年度北区難聴言語障害学級入級相談会講師	入級相談審査	北区王子・赤羽小学校	2013年10月7, 9, 10日
田中伸二(ST)	平成25年練馬区保育研究会主催　保健衛生学習会講師	ことばの発達につまずきのある子どもたちへのコミュニケーションの支援	練馬区役所	2013/11/1
三浦幸子(心理)	母子愛育会総合母子保健センター＜テーマ別研修会1＞	乳幼児期に見られる諸問題　関わりの難しい親子の対応	東京	2013/7/26
三浦幸子(心理)	認定・重症心身障害看護師研修	重症心身障害児者のこころの理解と家族支援	埼玉	2013/10/18
三浦幸子(心理)	東京都東部訪問看護現任研修	成長の途中で重症児になった子育てを行っている家族への支援	東京	2013/11/15
三間直子(心理)	板橋区医師会子どもの心の診療医研修会	気がかりな行動の理解と対応	東京	2013/10/28
三間直子(心理)	朝霞市学校保健部研修	発達障害を持つ児童生徒の保健室での支援	東京	2013/11/27
三間直子(心理)	杉並区子ども家庭支援センター 職員向けペアレントトレーニング講座	ペアレントトレーニング	東京	2014/2/4・25
荒木千鶴子(心理)	板橋区子ども発達支援センター支援者研修	気がかりな行動の理解と対応の仕方	東京	2014/2/13

2014年度　学会・研修会・講習会・講義(当センター療育研修所での通常講習会の講義は除く)

講師名(所属)	学会・講習会・研修会名	テーマ	場所	期日
北住映二	第56回日本小児神経学会総会	産科医療補償制度検討委員会主催セミナー　審査委員から見た産科医療補償制度診断書記載のポイント	浜松	2014/5/30
北住映二	第8回全国看護師(特別支援学校)スキルアップ講習会	呼吸障害に関する事例検討	東京	2014/7/31
北住映二	東京都東京都特別支援学校教員看護師研修会	医療的ケアと健康管理の実際的諸問題と注意点	東京	2014/8/8
北住映二	全国重症心身障害児者施設職員研修会看護師コース	重症心身障害児者の呼吸ケア	大阪	2014/11/15
北住映二	第11回日本小児神経学会医療的ケア研修セミナー	制度論、呼吸障害への対応のポイント(気道狭窄、誤嚥と姿勢、胃食道逆流症との関係)	富山	2014/11/15
北住映二	東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修・公開講座	重症児の医療 －呼吸器疾患と呼吸障害	東京	2015/3/20
北住映二	産科医療補償制度診断協力医セミナー	審査における重症度の基準の考え方	東京	2014/11/29
伊藤順一(整形外科)	江東区助産師・保健師合同研究会	先天性股関節脱臼および子どもの整形外科疾患について～助産師・保健師が注意して見る点～	江東区保健所	12.15
田中弘志(整形外科)	大田区整形外科医師会	小児整形外科の診断と治療の実際	大田区民ホール	
米山　明(小児科)	板橋区教育委員会研修	発達障害の医学的理解	板橋区	2014/7/29
米山　明(小児科)	板橋区教育委員会研修	発達障害の医学的理解	板橋区	2014/7/30
米山　明(小児科)	国立障害者リハビリテーションセンター　研修会	知的障害の医学的理解と対応	埼玉県	2014/8/1
米山　明(小児科)	板橋区教育委員会研修	発達障害の医学的理解	板橋区	2014/8/2
米山　明(小児科)	早稲田大学　教育・総合科学学術院	発達障害の医学的理解と対応	東京	2014/8/4
米山　明(小児科)	福島県「平成26年度発達障がい児地域支援体制強化研修」	発達障害とは	福島県	2014/8/29
米山　明(小児科)	板橋区子どもの心の診療連携を考える会	発達障害の医学的理解	板橋区	2014/11/18
米山　明(小児科)	さいたま市　総合療育センター ひまわり学園研修会	障害のある子ども と その保護者への支援	埼玉県	2015/2/13
米山　明(小児科)	板橋区小児在宅医療を考える会	板橋区小児等在宅医療連携小児等在宅医療連携	板橋区	2015/2/19
中谷勝利(小児科)	全国重心障害児・者を守る会　重症心身障害児在宅療育支援センター現任研修	重症児訪問看護における循環器疾患の理解と対応	東京都福祉保健局大久保庁舎	2014/4/17
中谷勝利(小児科)	関西看護ケア研究会セミナー	重症心身障害児と医療的ケアー重症児に対する日常的ケアの基本をやさしく学ぶー	ウィリング横浜	2014/4/26
中谷勝利(小児科)	福井県こども療育センター　平成26年度第2回療育研修会	重症心身障害児者の脊柱の変形と二次障害－経年齢的変化について－(呼吸・嚥下・消化管障害を中心に)	福井県こども療育センター	2014/6/14
中谷勝利(小児科)	東京都在宅重症心身障害児(者)訪問事業従事者研修	重症心身障害児(者)の医学的理解　重症心身障害児(者)に合併する症状(呼吸障害を中心に)	中野サンプラザ	2014/6/25
中谷勝利・山口直人(小児科)	板橋区医師会主催小児在宅医療実技講習会(第1回　在宅医療に関わる小児科医対象)	小児・重症心身障害児者での経管栄養・胃瘻の管理の実際と注意点	心身障害児総合医療療育センター	2014/7/9
中谷勝利(小児科)	関西看護ケア研究会セミナー	重症心身障害児と医療的ケアー重症児に対する日常的ケアの基本をやさしく学ぶー	福岡・電気ビル本館	2014/8/2
中谷勝利(小児科)	医療的ケアを必要とする児童・生徒に関する研修	準救急的状態への対応等	東京都特別支援教育推進室	2014/8/18
中谷勝利(小児科)	関西看護ケア研究会セミナー	重症心身障害児と医療的ケアー重症児に対する日常的ケアの基本をやさしく学ぶー	大阪・たかつガーデン	2014/9/13
中谷勝利(小児科)	東京都障害者通所活動施設職員研修会	重症心身障害児・者の不調のサイン	オリンピック記念青少年総合センター	2014/9/30
中谷勝利・山口直人(小児科)	板橋区医師会主催小児在宅医療実技講習会(第2回在宅医療に関わる小児科医対象)	小児・重症心身障害児者における呼吸障害　管理の実際と注意点	板橋区医師会館	2014/10/8
中谷勝利(小児科)	関西看護ケア研究会セミナー	重症心身障害児と医療的ケアー重症児に対する日常的ケアの基本をやさしく学ぶー	ウィリング横浜	2014/11/2
中谷勝利(小児科)	埼玉県看護協会研修	在宅支援を必要とする小児の理解	埼玉県看護協会	2015/1/17
中谷勝利・山口直人(小児科)	板橋区医師会主催小児在宅医療実技講習会(第3回　訪問看護ステーションの看護師・在宅医療に関わる看護師対象)	重症心身障害児者での経管栄養・胃瘻の管理の実際と注意点	板橋区医師会館	2015/1/28
中谷勝利・山口直人(小児科)	板橋区医師会主催小児在宅医療実技講習会(第4回　訪問看護ステーションの看護師・在宅医療に関わる看護師対象)	小児・重症心身障害児者における呼吸障害　管理の実際と注意点	心身障害児総合医療療育センター	2015/2/18
中谷勝利(小児科)	全国重心障害児・者を守る会　重症心身障害児在宅療育支援センター現任研修	障害児の呼吸について	中野サンプラザ	2015/2/20
中谷勝利(小児科)	関西看護ケア研究会セミナー	重症心身障害児と医療的ケアー重症児に対する日常的ケアの基本をやさしく学ぶー	名古屋国際会議場	2015/3/15
長瀬美香(小児科)	発達障害学術講演会	発達障害児への親支援プログラム～ペアレントトレーニングの実際～	東京小児療育病院	H26.6.25
長瀬美香(小児科)	板橋区立中学校教育研究会　特別支援研究部夏期研修会	医療と教育の連携	蓮根小学校	2014/8/1
長瀬美香(小児科)	埼玉市児童相談所　研修	ペアレントトレーニング	埼玉市一時保護所	H26.9.2
長瀬美香(小児科)	里親交流会	ペアレントトレーニング	北児童相談所	H26.9.6
長瀬美香(小児科)	板橋区子ども発達支援センター支援者研修会	発達障害児に対する心理社会的治療と薬物治療	心身障害児総合医療療育センター	H27.3.6
大日向純子(小児科)	HHB日高主催　子育て支援の講演会	医療機関の先生が語る小児の発達支援	埼玉県日高市総合福祉センター	2014/11/16
山口直人(小児科)	新潟県妊産婦・新生児・乳幼児支援者講習会	母乳で育つ赤ちゃんの発育とバリエーション	新潟大学医歯学総合病院	2014/4/19
山口直人(小児科)	第2回　JALC千葉エリア学習会	母乳育児における父親の役割と父親への支援を考える	千葉市民会館	2014/4/27
山口直人(小児科)	母乳育児支援を学ぶ20時間基礎セミナー	母乳育児支援一般	神奈川県立こども医療センター	2014.5.17, 6.29, 7.27, 8.3
山口直人(小児科)	第16回　母乳育児支援を学ぶ北陸教室in金沢	母乳で育つ赤ちゃんの発育とバリエーション	金沢大学医学部　十全講堂	2014/5/25
山口直人(小児科)	第16回　母乳育児支援を学ぶ北陸教室in金沢	母乳育児における父親の役割と父親への支援を考える	金沢大学医学部　十全講堂	2014/5/25
山口直人(小児科)	母乳育児支援を学ぶ20時間基礎セミナーin沖縄	母乳育児支援一般	沖縄県立中部病院	2014.6.7, 6.8, 7.12, 7.13
山口直人(小児科)	元気の出る母乳育児講演会	パパの母乳育児支援	那須野が原ハーモニーホール	2014/6/28
山口直人(小児科)	第4回　母乳育児支援を学ぶ1dayセミナー	少し早く生まれた赤ちゃんの母乳育児支援	前橋市民文化会館	2014/7/5
山口直人(小児科)	第6回母乳育児支援を学ぶ甲信越教室in長野	母乳育児における父親の役割と父親への支援を考える	長野赤十字病院	2014/9/7
山口直人(小児科)	第6回母乳育児支援を学ぶ甲信越教室in長野	母乳で育つ赤ちゃんの発育とバリエーション	長野赤十字病院	2014/9/7
山口直人(小児科)	母乳育児支援を学ぶ20時間基礎セミナー	母乳育児支援一般	母と子の長田産科婦人科クリニック・子育て長田こどもクリニック	2014.11.15, 11.16, 12.20, 12.21

山口直人（小児科）	母乳育児支援を学ぶ20時間基礎セミナー	母乳育児支援一般	川口市立医療センター	2015.2.11, 4.26
山口直人（小児科）	母乳育児支援を学ぶ20時間基礎セミナーin沖縄	母乳育児支援一般	かみや母と子のクリニック	2015.2.14, 2.15
木村育美（小児科）	女性医師の会(日本イーライリリー協賛)	発達障害診療において小児科医にできることは	東京（庭のホテル）	2014/11/17
後藤和恵（看護師）	HPSの視点と先進スキルで看護師が行う効果的プレパレーション	子どもの優しい医療を目指して　NO2	日総研	2014/4/19
仁宮真紀（看護師）	川崎医療福祉大学保健看護学・養護活動論	小児専門看護師が担う学校との連携	川崎医療福祉大学	2014/5/23
松村伸次（PT）	重症心身障害児者を守る会研修会	二次障害について	ライフピア西原	2014/7/2
松村伸次（PT）	医療ケアを必要とする児童・生徒に対する研修会	自立活動に関する講座	神楽坂庁舎	2014/8/20
松村伸次（PT）	ボバース研修会	年長児のQOL	心身障害児総合医療療育センター	2014/11/15
芝田利生（PT）	埼玉リハビリテーション問題研究会	肢体不自由児へのリラックスの取り組み方	さいたま市民会館	2014/10/18
芝田利生（PT）	埼玉リハビリテーション問題研究会	シーティングの考え方と車椅子作成上の注意点	さいたま市浦和岸町公民館	2014/12/6
直井富美子（PT）	関西看護ケア研究会	重症心身障害児の生活支援	大田区産業プラザPio	2014/7/19
直井富美子（PT）	特定非営利活動法人　地域ケアさぽーと研究会	看護師（特別支援学校）スキルアップ講習会	オリンピック記念青少年総合センター	2014/7/31
直井富美子（PT）	関西看護ケア研究会	重症心身障害児の生活支援	名古屋	2014/9/6
直井富美子（PT）	関西看護ケア研究会	重症心身障害児の生活支援	神戸	2015/3/28
金子断行（PT）	多摩地区脳性まひ研究会研修会	姿勢コントロールと歩行・上肢機能	都立北医療療育センター	2014/6/14-15
金子断行（PT）	岐阜こども研究会研修会	小児の発達と症例検討	岐阜地域児童発達支援センター	2014/9/2
金子断行（PT）	日本ボバース研究会千葉ブロック研修会	上肢の発達と姿勢コントロール	船橋二和病院	2014/9/6
金子断行（PT）	日本ボバース研究会北陸ブロック研修会	重症心身障害児・者の陽圧換気療法療法	富山県立高志学園	2014/9/08-09
金子断行（PT）	別府発達医療センター研修会	二足直立の発達と脳性麻痺治療	別府発達医療センター	2015/1/11-12
金子断行（PT）	日本ボバース研究会千葉ブロック研修会	脳性麻痺のデモンストレーションと臨床推論	船橋二和病院	2015/1/31
金子断行（PT）	㈱アシストジャパン研修会	小児の姿勢コントロールの発達と両麻痺児の治療	愛媛県アシストジャパン2号館	2015/2/6-7
金子断行（PT）	浜松市発達医療総合福祉センター外部研修会	脳性麻痺の二次障害	浜松市発達医療総合福祉センター	2015/2/18
金子断行（PT）	栃木ボバース研究会小児研修会	両麻痺児のデモンストレーションと臨床推論	とちぎリハビリテーションセンター	2015/3/7
佐々木清子（OT）	パシフィックサプライ「感覚統合遊具使い方セミナー	「感覚統合療法について	千葉	2014,5.17
佐々木清子（OT）	日本感覚統合学会講師	日本感覚統合学会講習会Bコース講師、	長崎	2014,8
佐々木清子（OT）	日本作業療法学会専門OT	摂食嚥下障害に対する評価と治療	東京	2014,8.9
佐々木清子（OT）	東京都情緒教育研究会	手の機能について	杉並	2014,10,7
佐々木清子（OT）	杉並区立こども発達センター	気になる子どもの感覚運動支援	杉並	2014、10／22
佐々木清子（OT）	医師会主催のこどもの心の研修会	発達障害児への感覚統合支援	板橋	2014,10.23
佐々木清子（OT）	新人看護師基礎講座	他職種連携による療育「作業療法支援」	府中	2015,2,6
児玉妙子　小畑順一（OT）	定型児におけるピンチ力と鉛筆把握の関連性について	平成26年度心身障害児等の療育に関する研究等事業研究助成報告	板橋	2014,4
児玉妙子　秋吉まきこ　寺林久美子　藤江泰子（OT）	How is the development of body image in children with spina bifida reflected in their drawings of a man?	第16回世界作業療法士連盟大会第48回日本作業療法学会	横浜	2014,6,19
杉本　恵子（ST）	板橋区子ども発達支援センター　支援者研修事業	発達障害の特性に配慮したコミュニケーション支援	心身障害児総合医療療育センター	2014/11/5
田中伸二（ST）	平成26年度臨床発達心理士資格認定講習会講師	初期言語発達とその支援	文京学院大学	2014/6/11
田中伸二（ST）	平成26年度臨床発達心理士資格認定講習会講師	初期言語発達とその支援	京都教育大学	2014/8/23
田中伸二（ST）	平成26年度北区難聴言語障害学級入級相談会講師	入級相談審査	北区王子・赤羽小学校	2014年10月6, 8, 9日
田中伸二（ST）	東大和市・羽村特別支援学校協会　特別支援教育講演	ことばの発達の問題とその支援	東大和市役所	2014/11/5
田中伸二（ST）	平成26年練馬区保育研究会主催　保健衛生学習会講師	ことばの発達につまずきのある子どもたちへのコミュニケーションの支援Ⅱ	練馬区役所	2014/11/6
柄田祈久子（ST）	板橋区子ども発達支援センター　親支援事業	ことばの発達の理解とことばを育てる関わり方の教室	日本肢体不自由児協会	2015/2/16
三浦幸子（心理）	全国児童発達支援協議会全国職員研修会	こころの理解と家族支援	神戸	2014/7/4
三浦幸子（心理）	母子愛育会総合母子保健センター＜テーマ別研修会1＞	乳幼児期に見られる諸問題　関わりの難しい親子の対応	東京	2014/8/6
三浦幸子（心理）	新宿区子ども総合センター公開講座発達支援地域講演会	発達障害って何だろう？	東京	2014/12/6
三浦幸子（心理）	新座市みどり学園職員研修会	家族支援について	埼玉	2015/1/6
三浦幸子（心理）	豊島区子ども家庭支援センター職員研修会	子どもの心の理解と保護者支援	東京	2015/2/5
三浦幸子（心理）	第1回重症心身障害児者にかかわる心理担当者研修会	スタッフ支援における心理臨床的知見の活用～心理担当者のアイデンティティーについて～	東京	2015/2/28
三間直子（心理）	杉並区子ども家庭支援センター 職員向けペアレントトレーニング講座	ペアレントトレーニング	東京	2015/1/9・30
徳井千里（心理）	第1回重症心身障害児者にかかわる心理担当者研修会	親子入所における子どもの発達援助と家族支援～発達状態の把握と保護者への対応，多職種との連携について～	東京	2015/2/28
荒木千鶴子（心理）	板橋区子ども発達支援センター支援者研修	気がかりな行動の理解と対応の仕方	東京	2014/7/30
山形明子（心理）	第1回重症心身障害児者にかかわる心理担当者研修会	要介助の入所成人男性に関する思考特性の理解と対応～認知力の共通理解の方法と継続的な個別面接について～	東京	2015/2/28

2015年度　学会・研修会・講習会　講演・講義4月～9月分(当センター療育研修所での通常講習会の講義は除く)

講師名(所属)	学会・講習会・研修会名	テーマ	場所	期日
北住映二	第41回日本重症心身障害学会	基調講演　重症心身障害への医療的支援の、現在・過去・未来－貢献と課題について考える	東京	2015/9/18
米山　明(小児科)	第35回　ハイリスク児フォローアップ研究会	発達障害の理解と支援	東京	2015/6/14
米山　明(小児科)	全国児童発達支援協議会研修会(秋田)	施設内虐待について	秋田県	2015/7/3
米山　明(小児科)	早稲田大学　教育・総合科学学術院	発達障害の医学的理解/家族支援	東京	2015/7/4
米山　明(小児科)	第21回東京子どものメンタルヘルス研究会	発達障害支援(子どもから大人まで)	東京	2015/7/13
米山　明(小児科)	平成27年度発達障がい児支援者スキルアップ研修会	発達障害とは	福島県	2015/7/24
米山　明(小児科)	板橋区教育委員会研修	発達障害の医学的理解	板橋区	2015/7/30
米山　明(小児科)	国立障害者リハビリテーションセンター研修会	知的障害の医学的理解と対応	埼玉県	2015/8/4
米山　明(小児科)	児童虐待対応母子保健関係職員指導者研修	障害のある児童の養育と虐待防止	神奈川県	2015/8/26
米山　明(小児科)	家庭裁判所調査官養成課程　第11期後期合同研修	発達障害の医学的理解	埼玉県	2015/9/25
中谷勝利(小児科)	関西看護ケア研究会セミナー	重症心身障害児と医療的ケア－重症児に対する日常的ケアの基本をやさしく学ぶ－	大阪・たかつガーデン	2015/6/14
中谷勝利(小児科)	訪問看護師等育成研修(基礎編)	重症心身障害児(者)の医学的理解　重症心身障害児(者)が抱える身体的合併症の病態とその対応法	中野サンプラザ	2015/6/15
中谷勝利(小児科)	医療的ケアを必要とする児童・生徒に関する研修	準救急的状態への対応等	東京都特別支援教育推進室(神楽坂庁舎)	2015/8/28
中谷勝利(小児科)	関西看護ケア研究会セミナー	重症心身障害児と医療的ケア－重症児に対する日常的ケアの基本をやさしく学ぶ－	大田区産業プラザ	2015/9/12
長瀬美香(小児科)	第113回小児精神神経学会　研修セミナー	明日からやってみよう！ペアレントトレーニングの手法を用いたスタッフ支援	伊藤ホール	2015/6/27
長瀬美香(小児科)	板橋区子ども発達支援センター支援者研修会	ペアレントトレーニング	心身障害児総合医療療育センター	2015/7/1
長瀬美香(小児科)	第11回小児リハビリテーション研修会	やる気スイッチを見つけよう！　子ども育てのコツ「ペアレントトレーニング」	日立製作所ひたちなか総合病院	2015/7/12
長瀬美香(小児科)	発達障がい児支援者スキルアップ研修会	発達障がい児の特性に基づく支援～ペアレントトレーニングの実践～	福島県県北保健福祉事務所	2015/8/28
長瀬美香(小児科)	埼玉市児童相談所　研修	ペアレントトレーニング	埼玉市一時保護所	2015/9/11
山口直人(小児科)	母乳育児支援を学ぶ20時間基礎セミナー	母乳育児支援一般	神奈川県立こども医療センター	2015.8.29, 8.30, 9.19, 20
山口直人(小児科)	ラ・レーチェ・リーグ日本主催講演会「赤ちゃんと出かけよう！」	みんなの母乳育児 ～家族、地域、社会における母乳育児～	日本赤十字看護大学	2015/9/13
仁宮真紀(看護師)	東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修　第4期	看護倫理	都立府中療育センター	2015/8/27
海老原　毅(薬剤科)	東京都薬剤師会「無菌調製技能習得研修会」	在宅医療における無菌調剤の現状	帝京平成大学	2015/3/8
海老原　毅(薬剤科)	日本薬学生連盟「リアルボイスから学ぶ」	障がい児・者に関わる薬剤師の現状とこれから	星薬科大学	2015/6/14
海老原　毅(薬剤科)	第13回HIP研究会フォーラム	栄養・輸液の基礎	かながわ労働プラザ	2015/7/11
海老原　毅(薬剤科)	東京都薬剤師会「無菌調製技能習得研修会」	在宅医療における無菌調剤の現状	星薬科大学	2015/8/9
海老原　毅(薬剤科)	東京都薬剤師会「無菌調製技能習得研修会」	在宅医療における無菌調剤の現状	帝京大学	2015/9/6
海老原　毅(薬剤科)	伊勢崎市薬剤師会研修会	無菌室共同利用のための実技研修会	伊勢崎市民文化会館	2015/9/19
松村伸次(PT)	守る会研修会【渋谷区)	二次障害について	渋谷区民センター	2015/7/2
松村伸次(PT)	医療ケアを必要とする児童・生徒に対する研修会	自立活動に関する講座	神楽坂庁舎	2015/8/17
直井富美子(PT)	特別支援学校看護師研修推進協議会	看護師(特別支援学校)スキルアップ講習会	国立オリンピック記念青少年総合センター	2015/7/28
増渕順恵(PT)	日本理学療法士協会主催理学療法士講習会	脳性麻痺児の評価と治療	順天堂大学	2015/8/8
金子断行(PT)他	多摩地区脳性まひ研究会研修会	STのための発声摂食のアプローチ	都立北医療療育センター	2015/7/23-24
金子断行(PT)	関西看護出版セミナー研修	重症心身障害児・者の呼吸療法	大阪国民會館	2015/8/1
佐々木清子(OT)	パシフィックサプライ「感覚統合遊具使い方セミナー	「感覚統合療法について	東京	2015/4./25
佐々木清子(OT)	パシフィックサプライ「感覚統合遊具使い方セミナー	「感覚統合療法について	東京	2015/5/16
佐々木清子(OT)	日本感覚統合学会講師	日本感覚統合学会講習会Bコース講師	埼玉	2015/8/1
佐々木清子(OT)	日本作業療法学会専門OT	摂食嚥下障害に対する評価と治療	東京	2015/8/9
児玉妙子　村山敦美(OT)	「目と手の協調を促すあそびについて」	子育て支援情報誌No.13		2015/9/10
田中伸二(ST)	平成27年度臨床発達心理士資格認定講習会	認知発達の障害とその支援	文京学院大学	2015/6/20
田中伸二(ST)	平成27年度臨床発達心理士資格認定講習会	初期言語発達とその支援	京都教育大学	2015/8/22
田中伸二(ST)	平成27年練馬区保育研究会	初期のことばの発達の評価と支援	練馬区役所	2015/9/10
三浦幸子(心理)	広島市西部こども療育センター職員全体研修	心の理解と家族支援	広島	2015/5/29
三浦幸子(心理)	広島市西部こども療育センター合同実践学習会	保育園・幼稚園における「発達障害児」の保護者支援について	広島	2015/5/29
三浦幸子(心理)	母子愛育会総合母子保健センター＜地域母子保健2＞	乳幼児期に見られる諸問題　関わりの難しい親子の対応	東京	2015/7/8
三浦幸子(心理)	第2回重症心身障害児者にかかわる心理担当者研修会	心理臨床的知見を活用した家族支援	東京	2015/7/11
山田雄一(心理)	第2回重症心身障害児者にかかわる心理担当者研修会	乳幼児期の母親の支援を考える	東京	2015/7/11
徳井千里(心理)	板橋区子ども発達支援センター支援者研	気がかりな行動の理解と対応	東京	2015/9/1

2012年度　学会発表

発表者(所属)	演題	学会等名称	期日
伊藤順一(整形外科)、田中弘志、藤原清香、瀬下崇、君塚葵	下腿偽関節症と巨指症を呈したvon Recklinghausen病と思われる一例	第49回日本リハビリテーション医学会(福岡)	2012/5/31
伊藤順一(整形外科)	両股関節脱臼を合併する多発性関節拘縮症の治療戦略	第51回日本小児股関節研究会	2012/6/8
伊藤順一(整形外科)、根本まりこ、田中弘志、藤原清香、　瀬下崇、君塚葵、坂口亮	両股関節脱臼を合併する多発性関節拘縮症の治療戦略	第23回関東小児整形外科研究会	
松山順太郎、伊藤順一(整形外科)	超音波エコートラッキングを用いた骨形成不全症に対するアレンドロネート製剤法による効果判定	第24回骨系統疾患研究会	2015/12/1
伊藤順一(整形外科)	当センターにおけるいわゆる先天性股関節脱臼の保存治療・過去24年	第23回関東小児整形外科研究会	2013/2/2
瀬下崇(整形外科)、田邊文、浜村清香、藤原清香、田中弘志、伊藤順一、君塚葵	A型ボツリヌス毒素の 消化管運動抑制作用に関する報告	第8回日本脳性麻痺ボツリヌス療法研究	2012/7/21
瀬下崇(整形外科)、富間聡美、山崎誠、芝田利生	脳性まひ児の側彎に対する半硬性装具の使用報告	日本義肢装具学会(東京)	2012.11
田中弘志(整形外科)	二分脊椎の股関節脱臼、亜脱臼に対する腸腰筋前外側移行術及び大腿骨減捻骨切り術の短期成績について	日本二分脊椎研究会	2012/6/30
田中弘志(整形外科)	二分脊椎患者の股関節X線正面像によるMigration Percentageを用いた幼児期の股関節脱臼、亜脱臼の頻度とその後の推移について	第30回日本二分脊椎研究会	2013/7/6
田中弘志(整形外科)	手術治療により外側接地が改善した足部内反変形2例の足部立位X線による第一中足骨頭と第五中足骨基部のpixel値の経時的変化について	日本足の外科学会	2012/10/10
田中弘志(整形外科)	二分脊椎の内反足変形に対する前脛骨筋外方移行術の長期成績	日本小児整形外科学会	2012/11/30
芳賀信彦、田中弘(整形外科)ほか	日本における先天性無痛無汗症患者の疫学調査	第23回日本小児整形外科学会	2012/11/30
根本まりこ(整形外科)、伊藤順一　、田中弘志、藤原清香、瀬下崇、君塚葵	電動義手を速やかに受け入れた先天性両上肢欠損の男児	第23回関東小児整形外科研究会	2012
田邊文(整形外科)、浜村清香、藤原清香、田中弘志、瀬下崇、伊藤順一、君塚葵	骨形成不全症成人例における大腿骨骨折に対して観血的整復術を行った4例	第23回日本小児整形外科学会	2012/11/30
米山　明(小児科)	障害児虐待について考える	第18回日本子ども虐待防止学会	2012/12/7
長瀬美香(小児科)	障害児虐待の対応と予防	第18回日本子ども虐待防止学会	2012/12/.8
田辺良(小児科)	重症心身障害児者におけるNPPV(非侵襲的陽圧換気療法)使用状況の全国調査結果	第38回　日本重症心身障害学会	2015/9/29
尾西由貴(むらさき愛育園指導員)	排泄・行為介助時のプライバシー保護の取り組み	第23回重症心身障害療育学会学術集会	2012/12/3-5
海老原　毅(薬剤科)	セフタジジム皮下投与の試みと問題点	第38回日本重症心身障害学会学術集会	2012/9/28
金子断行(PT)	シンポジウム講演「パーカッションベンチレーターの適正使用」	第38回日本重症心身障害学会学術集会	2012/9/28～29
竹本聡(PT)	重症心身障害児(者)に対する蘇生バックによる用手陽圧換気の検討	第38回日本重症心身障害学会学術集会	2012/9/28
齋藤裕子(PT)	脛骨骨切り切術後に装具を工夫し介助立位を獲得した骨形成不全症の一例	第9回日本理学療法士協会神経理学療法研究部会学術集会	2012/12/1
小畑　順一(OT)	脳性麻痺児におけるコンピュータ用4種のポインティングディバイス操作時の上肢関節の2次元動画分析に基づく移動距離の検者内信頼性の検討	日本保健科学学会	2012/10/1
小畑　順一(OT)	脳性麻痺児におけるコンピュータ用4種のポインティングディバイス操作時の上肢関節の運動量に基づく操作効率の相違	日本保健科学学会	2012/10/1
佐々木清子、小平、町田(OT)	重度心身障害児1例の大声による家族負担軽減のための取り組み	第46回日本作業療法学会	2012/6/15～17
佐々木清子、児玉妙子(OT)、由井崇子	感覚ニーズへの配慮により摂食量が改善した1症例における有効な介入方法	第17回日本摂食嚥下リハビリテーション学会	2012/8/31,9/1
佐々木清子、児玉妙子(OT)	咬むことが頻繁に見られる重症心身障害児一例の発達的問題点とその支援	小児口腔外科学会	2012/11/23
佐々木清子、平澤昌子、村山敦美、芝崎妙子(OT)	増加する感覚統合療法ニーズにこたえるための施設内における体制づくりと今後の課題	日本感覚統合学会	2012/12/7,8
三浦幸子、三間直子、荒木千鶴子(心理)	肢体不自由をもち施設入所している子どもたちの心理臨床	第31回日本心理臨床学会	2012/9/14
荒木千鶴子、三浦幸子(心理)	「自閉症スペクトラム特性」の理解に基づいたスタッフ支援―幼児通園療育職員向け研修会を担当して―	第31回日本心理臨床学会	2012/9/15

2013年度　学会発表

発表者(所属)	演題	学会等名称	期日
瀬下崇(整形外科)	A型ボツリヌス毒素(ボトックス)の股関節痛に対する短期治療効果	日本小児股関節研究会	2013/6/28
瀬下崇(整形外科)	A型ボツリヌス毒素(®ボトックス)の 股関節脱臼対する 短期治療効果	第9回日本脳性麻痺ボツリヌス療法研究会	2013/7/27
瀬下崇(整形外科)	痙性内反尖足に対する、前脛骨筋腱外側移行術 (LTT-TA: Lateral Tendon Transfer of Tibiaris Anterior) の有効性	第30回日本脳性麻痺の外科研究会	2013/10/19
田中弘志(整形外科)	二分脊椎患者の股関節X線正面像によるMigration Percentageを用いた幼児期の股関節脱臼、亜脱臼の頻度とその後の推移について	日本二分脊椎研究会	2013/7/6
田中弘志(整形外科)	二分脊椎の足部変形に対する骨性手術の治療成績について	日本足の外科学会	2013/10/31
田中弘志(整形外科)	シャルコーマリートゥース病に伴う足部変形の手術成績	関東小児整形外科研究会	2014/2/8
武井聖良(整形外科).伊藤順一	東京都の乳児健康調査における股関節診察の実際	第52回日本小児股関節研究会	6月28日
武井聖良(整形外科).伊藤順一	東京都の乳児健康診査における股関節診察の実際	第40回日本股関節学会	11.29
光岡 清香(整形外科)	心身障害児(者)における環軸椎不安定症への対策	第22回日本小児整形外科学会	2013/11/8
田邊文(整形外科)	長期経過観察が可能であった口骨形成不全症 Shapiro 分類別の移動能力の予後について	第22回日本小児整形外科学会	2013/11/8
米山　明(小児科)	障害児虐待の予防と対応について(分科会)	第19回日本子ども虐待防止学会	2013/12/14
米山　明(小児科)	障害児通所施設における障害児虐待の予防と対応について(ポスター)	第19回日本子ども虐待防止学会	2013/12/14
西田裕哉(小児科)	重症心身障害者におけるNPPV(非侵襲的陽圧換気療法)のプラクティカルガイド作成にむけて　試案の作成と提示	第55回小児神経学会学術集会	2013/5/31
後藤和恵　川口香織(看護師)	すべての子どもたちが遊べるプレイルームを目指して(わくわくルーム開設に向けての取り組み)	第14回子ども療養環境研究会	2013/6/16
後藤和恵　川口香織(看護師)	整形外科手術を受ける子ども・家族が知りたい事ー気持ちに寄り添った術前プレパレーションに向けてー	日本看護協会　小児看護学術集会	2013/9/12－13
後藤和恵(看護師)	How japanese Children are supported bay Hospital Play	Hospital play Specialists Assoiation of Aotearoa/New Zealand	2014/3/21～3/23
海老原　毅(薬剤科)	板橋区薬剤師会による個人薬局無菌調剤施設の共同利用推進への取り組み	第46回日本薬剤師会学術大会	2013/9/23
海老原　毅(薬剤科)	障がい児・者における薬学的管理の必要性 —病棟加算算定へ向けてー	第32回日本社会薬学会	2013/10/14
海老原　毅(薬剤科)	地域医療連携における病院薬剤師の役割	第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会	2014/2/2
金子断行(PT)北住映二(小児科)他	自閉を伴う頭部外傷後遺症児の常同行動への介入	第39回日本重症心身障害学会学術集会	2013/9/26～27
金子断行(PT)	思春期初期に呼吸障害と胃食道逆流症により状態悪化をきたしたがその後良好な経過に転化できた脳性まひ児へのアプローチ	第58 回全国肢体不自由児療育研究大会in山形	2013/10/17～18
小畑　順一(OT)	ウェルドニッヒ・ホフマン病1例の作業療法支援	日本保健科学学会	2013/10/1
小畑　順一(OT)	痙直型両麻痺児における母指とⅡ指のピンチ力および握力のデータの再現性の検討	日本保健科学学会	2013/10/1
佐々木清子、久保田麻子、中村泰子(OT)	咬む行為が頻繁に見られる知的障害児への介護上の問題と家族支援	第47回日本作業療法学会	2013/6/28～30
三浦幸子、荒木千鶴子(心理)	重症心身障害児者施設スタッフ支援における心理職の意義 —10年間の研修受講者のニーズ・効果・限界から—	第32回日本心理臨床学会	2013/8/26
栗原美和、中島尚美、荒木千鶴子、三浦幸子(通園スタッフ)	療育機関における保育スタッフに求められる研修内容　—演習体験を取り入れる意義—	第28回関東甲信越静肢体不自由児施設療育研究部会	2013/9/13
中島尚美, 他	「18トリソミー」の子どもたちとの豊かな生活経験　—幼児通園におけるチームアプローチ—	第58回全国肢体不自由児療育研究大会	2013/10/17
後藤和恵　川口香織(看護師)	すべての子どもたちが遊べるプレイルームを目指して(わくわくルーム開設に向けての取り組み)	第14回子ども療養環境研究会	2013/6/16
後藤和恵　川口香織(看護師)	整形外科手術を受ける子ども・家族が知りたい事ー気持ちに寄り添った術前プレパレーションに向けてー	日本看護協会　小児看護学術集会	2013/9/12～9/13
後藤和恵(療護園)	How japanese Children are supported bay Hospital Play	Hospital play Specialists Assoiation of Aotearoa/New Zealand	2014/3/21～3/23
海老原　毅(薬剤科)	板橋区薬剤師会による個人薬局無菌調剤施設の共同利用推進への取り組み	第46回日本薬剤師会学術大会	2013/9/23
海老原　毅(薬剤科)	障がい児・者における薬学的管理の必要性 —病棟加算算定へ向けてー	第32回日本社会薬学会	2013/10/14
海老原　毅(薬剤科)	地域医療連携における病院薬剤師の役割	第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会	2014/2/2
金子断行(PT)北住映二(小児科)他	自閉を伴う頭部外傷後遺症児の常同行動への介入	第39回日本重症心身障害学会学術集会	2013/9/26～27
金子断行(PT)	思春期初期に呼吸障害と胃食道逆流症により状態悪化をきたしたがその後良好な経過に転化できた脳性まひ児へのアプローチ	第58 回全国肢体不自由児療育研究大会in山形	2013/10/17～18
小畑　順一(OT)	ウェルドニッヒ・ホフマン病1例の作業療法支援	日本保健科学学会	2013/10/1
小畑　順一(OT)	痙直型両麻痺児における母指とⅡ指のピンチ力および握力のデータの再現性の検討	日本保健科学学会	2013/10/1
佐々木清子、久保田麻子、中村泰子(OT)	咬む行為が頻繁に見られる知的障害児への介護上の問題と家族支援	第47回日本作業療法学会	2013/6/28～30
佐々木清子(OT)、米山明	特別支援学級への訪問指導における作業療法士による支援の視点	第110回日本小児精神神経学会	2013/11/8,9
三浦幸子、荒木千鶴子(心理)	重症心身障害児者施設スタッフ支援における心理職の意義 —10年間の研修受講者のニーズ・効果・限界から—	第32回日本心理臨床学会	2013/8/26
栗原美和、中島尚美、荒木千鶴子、三浦幸子(通園スタッフ)	療育機関における保育スタッフに求められる研修内容　—演習体験を取り入れる意義—	第28回関東甲信越静肢体不自由児施設療育研究部会	2013/9/13

2014年度　学会発表

発表者(所属)	演題	学会等名称	期日
伊藤順一(整形外科)	1～3歳児のDDHの初回治療の現状	第53回日本小児股関節研究会	6.2
程原誠、伊藤順一(整形外科)	プラント病による治療後遺残変形をTalor Spatial Frameを用いて治療した2例	第27回日本創外固定・骨延長学会	2015/3/7
瀬下崇(整形外科)	A型ボツリヌス(BoTX-A)療法とリハの連携、手術治療やバクロフェン髄注(ITB)の使い分けについて	第1回ボツリヌス治療学会	2014/9/30
瀬下崇(整形外科)	上肢機能評価尺度MACS(Manual ability Classification System:脳性まひ児の手指操作能力分類システム)日本語版の信頼性の検討	第31回日本脳性麻痺の外科研究会	2014/10/18
田中弘志(整形外科)	二分脊椎の踵足変形に対する腱移行術の長期経過後に逆変形による内反尖足変形を生じた2例	日本二分脊椎研究会	2014/7/5
田中弘志(整形外科)	シャルコーマリートゥース病に伴う足部変形の手術成績	日本足の外科学会	2014/11/13
田中弘志(整形外科)	長期経過により造骨性変化が消失した Osteosclerotic metaphyseal dysplasia の一例	日本骨系統疾患研究会	2014/11/28
田中弘志(整形外科)	頻回の骨折による前腕変形に対して手術を行い移動機能、日常生活動作が改善した骨形成不全症の一例	日本骨系統疾患研究会	2014/11/28
田中弘志(整形外科)	先天性無痛無汗症に合併した踵骨骨折の治療経験	関東小児整形外科研究会	2015/2/7
武井 聖良(整形外科)他	15 両側先天性脛骨列欠損症に対し、両足関節離断および両脛腓骨間癒合を行った一例	第26回骨系統疾患研究会	2014/11/28
武井 聖良(整形外科)	東京都の 3-4 ヶ月健診における股関節診察の実態	第23回日本小児整形外科学会	2014/11/28
阿南 揚子(整形外科)	染色体異常症に伴う足部変形に対する手術方法と成績	第23回日本小児整形外科学会	2014/11/28
田　啓樹(整形外科)	脳性麻痺患者に対する内転筋皮下切腱と閉鎖神経フェノールブロックによる股関節脱臼予防の有効性	第25回　小児整形外科学会	2014/11/28
田　啓樹(整形外科)	右上腕先天性切断術後の骨過形成に対して人工骨を用いて再手術を行った1例	第25回　関東小児整形外科研究会	2015/2/7
米山　明(小児科)	障害児虐待の対応と予防(シンポジウム)	子ども虐待防止世界大会・日本子ども虐待防止学会	2014/9/15
長瀬美香(小児科)	障害児虐待の対応と予防	第20回 ISPCAN世界大会	2014.9.14
山口直人(小児科)	吸気トリカー機能をもつ排痰補助装置の重症心身障害児・者への使用経験	第36回日本呼吸療法医学会学術総会	2014/7/20
山口直人(小児科)	小児の在宅医療の推進をめざして~小児在宅医療実技講習会の開催~	第19回板橋区医師会医学会	2014/9/13
山口直人(小児科)	吸気トリカー機能をもつ排痰補助装置の重症心身障害児・者への使用経験	第40回日本重症心身障害学会学術集会	2014/9/26
木村育美(小児科)	知的障害のある児者における自傷行動への対処方法の検討.	第56回日本小児神経学会学術集会	2014.5.29-31 (発表 2014.5.30)
安藤亜希(小児科)	2歳児における視覚的共同注意、要求に言語化、モノの実在性の認識	第56回日本小児神経学会学術集会	2014/5/30
松塚敦子(小児科)	神経筋疾患患者における呼吸リハビリテーション　知的障害の有無による介入・継続の工夫と効果について	第56回日本小児神経学会学術集会	2014/5/30
仁宮真紀(看護師)	小児看護専門看護師が実施した役割開発・ワークショップにおける参加者の気づき―	第2回日本小児看護専門看護学会	2014/6/13
仁宮真紀(看護師)	学校における医療的ケアの必要な子どもとその家族への支援―学校の看護師・小児看護専門看護師・養護教諭の連携―	日本家族看護学会　第21回学術集会	2014/8/10
藤井恵未(看護師)	重症心身障害児・肢体不自由児における5S活動の取り組みについて	第29回関東甲信越静肢体不自由児療育研究部会	2014/9/11～9/12
後藤和恵　川口香織(看護師)	子ども・家族の視点に立った療育環境を目指して―アンケート調査・キャプション評価による環境評価―	第59回全国肢体不自由児療育研究大会(広島)	2014/10/16～10/17
秋田由美　四方田朋子　川口香織(看護師)	下肢の術後ギプス固定による踵部褥瘡のリスクと対策	第59回全国肢体不自由児療育研究大会(広島)	2014/10/16～10/17
幸重かおり(看護師)	重症心身障害者の爪ケアマニュアルの作成に向けて	第40回　日本重症心身障害学会学術集会	2014/9/26-27
大井美佳(むらさき指導員)	感染対策での長期間の面会制限に対するかぞくへのサポートを考える	第25回重症心身障害療育学術集会	2014/10/1-3
海老原　毅(薬剤科)	障がい児・者における薬学的管理	第32回日本社会薬学会記念シンポジウム	2014/10/26
竹木　正亘(薬剤科)	ストラテラ内服液投与量自動計算システムによる処方設計支援	第44回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会	2014/8/30
金子断行(PT)	シンポジウム講演「理学療法士の専門性向上」	第40回日本重症心身障害学会学術集会	2014/9/26～27
今野有里(PT)	重症心身障害児(者)における機械的排痰補助装置の導入と継続の工夫について	第40回日本重症心身障害学会学術集会	2014/9/26
吉澤尚史(PT)	18トリソミーにおける理学療法報告	第40回日本重症心身障害学会学術集会	2014/9/26～27
金子断行　柴久喜玲　齋藤裕子　星野英子(PT)　古山晶子　長瀬美香(小児科)	パネリスト講演「重症心身障害児への常同行動への援助」	第6回重症心身障害理学療法研究会	2014/11/29～30
小畑　順一(OT)	健常児におけるピンチ力と鉛筆把握の関連性	第59回全国肢体不自由児療育大会	2014年10月
佐々木清子、藤江、寺林、奥村(OT)	発達障害児合同活動の意義	第48回日本作業療法学会、第16回世界作業療法連盟大会	2014,6
佐々木清子(OT)、米山明	当センターにおける超低(低)出生体重児に対する作業療法アプローチ	第50回日本周産期・新生児医学会学術集会	2014,7,13
荒木千鶴子、三浦幸子(心理)	「自閉症スペクトラム障害」とされる子どもの理解と支援　―困難事例のもつ背景要因―	第33回日本心理臨床学会	2014/8/25
中島尚美、栗原美和、三浦幸子、荒木千鶴子、山形明子(通園スタッフ)	療育の展開に必要な素材・教材の工夫	第59回全国肢体不自由児療育研究大会	2014/10/16

2015年度　学会発表 （4月～9月までのみ）

発表者(所属)	演題	学会等名称	期日
小崎慶介(共同演者)(整形外科)	後天性両前腕切断に対して能動義手を処方した幼児の1例	第52回日本リハビリテーション医学会	2015/5/28
小崎慶介(共同演者)(整形外科)	Education and Related Support from Medical Specialists for Japanese Patients with Achondroplasia/Hypochondroplasia & Osteogenesis Imperfecta	World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine	2015/6/20
小崎慶介(共同演者)	親権者が不在の幼児に対して手術を行った経験	第61回日本リハビリテーション医学会関東地方会	2015/9/12
瀬下崇(整形外科)	「姿勢保持装置　あとづけ式簡易電動化ユニットの試作」	第52回リハビリテーション学会	2015/5/29
瀬下崇(整形外科)	「療育今昔物語」	第42回脳性麻痺研究会	2015/5/30
瀬下崇(整形外科)	重度成人脳性麻痺患者の脊柱変形と股関節脱臼の関連性の検討	第62回リハビリテーション学会関東地方会	2015/9/12
田中弘志(整形外科)	脊髄脂肪腫の足部内反変形に対する手術前後における足部立位X線正面像のTF angleの変化について	第32回日本二分脊椎研究会	2015/7/4
米山　明(小児科)	「今、療育を考える」	日本小児精神神経学会	2015/6/28
長瀬美香(小児科)	施設内虐待を報告された児童養護施設でのペアレントトレーニングの有効性	第113回日本小児精神神経学会	2015/6/28
古山晶子(小児科)	脳性麻痺児者の筋緊張亢進等へのリスペリドンの口使用経験	第58回小児神経学会学術集会	2015/5/28
木村育美(小児科)	高機能型自閉症スペクトラム障害群章ににおけるアリピプラゾールの少量療法ー使用経験の報告.	第57回日本小児神経学会学術集会	2015/5/28
木村育美(小児科)	WISCⅣでのVCI値が120を超えるが何らかの困難を示し受診の当クリニック事例に関する検討.	第113回日本小児精神神経学会	2015/6/28
荻田香織(小児科)	脳性麻痺で重症心身障害である児者におけるレボメプロマジンの使用経験	第41回日本重症心身障害学会学術集会	2015/9/10
金沢真希子(小児科)	当院における特注気管カニューレの使用状況	第41回日本重症心身障害学会学術集会	2015/9/10
伊藤正恵(看護師)	医療型障害児入所施設で生活する思春期脳性麻痺時の周囲との距離への戸惑い	第113回日本小児精神神経学会	2015/6/27～6/28
伊藤正恵(看護師)	臨床現場を想定したリアル模擬患者シミュレーションによる授業評価分析	第41回看護研究学会	2015/8/22～8/23
木下知栄(看護師)	訪問看護ステーションの実情を踏まえた連携	第30回関東甲信越静肢体不自由児療育研究部会	2015/9/10～9/11
田部ひろみ(看護師)	白癬爪の抗菌剤軟膏塗布に　ラッピング法を用いて	第４１回日本重症心身障害学会学術集会	2015/9/18-19
幸重かおり(看護師)	肥厚爪ケアについて	第２６回重症心身障害療育学術集会	2015/9/30-10/2
小畑　順一(OT)	反復運動課題による手指の筋力強化がトラックボール操作の入力量に及ぼす効果	日本保健科学学会	2015/9月
小畑　順一(OT)	痙直型両麻痺児におけるPD操作の入力量に関与する上肢機能の検討	日本保健科学学会	2015/9月
佐々木清子、村山敦美、奥山晶子、久保田麻子(OT)	重症心身障害児の排泄介護の現状	第49回日本作業療法学会	2015/6/1
三間直子(心理)	発達障がいへの地域支援 板橋区の地域連携について　板橋区子ども発達支援センターの役割と地域連携	第113回日本小児精神神経学会	2015/6/28
三浦幸子、荒木千鶴子、山形明子 （心理）	重症心身障害児者にかかわる心理担当者の現状と課題	第34回日本心理臨床学会	2015/9/18

2012年度　論文、著作物

著者名(所属)	題名	雑誌名・書名	発行月
北住映二	「呼吸障害」、「気管切開の管理」「摂食嚥下障害・経管栄養」「胃瘻・胃食道逆流症」	北住映二、杉本健郎編著 『新版　医療的ケア研修テキスト』 日本小児神経学会、かもがわクリエイツ	
中谷勝利(小児科)	胃瘻・胃食道逆流症(共著)		4月

中谷勝利(小児科)	胃食道逆流症・十二指腸通過障害	はげみ平成24年度8・9月号　さまざまな合併症	
西田裕哉(小児科)	排尿の障害		
石川直子(小児科)	気管支喘息		
田邊良(小児科)	体温調節の障害		
古山晶子(小児科)	心理的要因による症状		
木村育美(小児科)	自傷行動		8月

北住映二	小児疾患における摂食嚥下障害の特徴・注意点. 脳性麻痺	藤島一郎監修『疾患別に診る嚥下障害』96- 119頁　医歯薬出版社	8月
尾本和彦(歯科)、北住映二	ダウン症	同上　115-119頁	8月
北住映二	小児の誤嚥の取り扱いはどのようにすべきか	JOHNS(Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery)　第28巻　第12号　1875-1880頁	
伊藤順一(整形外科)	小児装具のリハビリテーション	総合リハビリテーション　増大特集　リハビリテーションQ&A　医学書院	5月
松山順太郎、伊藤順一(整形外科)	超音波エコートラッキングを用いた骨形成不全症に対するアレンドロネート製剤法による効果判定	第24回骨系統疾患研究会記録集	12月
伊藤順一(整形外科)、根本まりこ、田中弘志、藤原清香、　瀬下崇、君塚葵、坂口亮	軽微なX線所見を呈したtrichorhinophalangeal　syndrome type1の1家系	第23回日本整形外科学会骨系統疾患研究会記録集59-63、2012.9.10	9月
瀬下崇(整形外科)、君塚葵	「肢体不自由の早期療育」	発達障害研究　第34巻4号	6月
田中弘志(整形外科)、根本まりこ、浜村清香、瀬下崇、伊藤順一、君塚葵	小児の足部内反変形に対するEvans手術の長期成績(先天性内反足と二分脊椎の比較)	日本足の外科学会誌	
田中弘志(整形外科)	先天性多発性関節拘縮症	小児内科　Vol. 44　増刊号	
田中弘志(整形外科)	母親からときに聴かれること(先天性内反足、先天性外反踵足)	小児外科　Vol. 44　No.7	7月
田中弘志(整形外科)	骨形成不全	小児科　診断・治療指針	8月
君塚葵(整形外科)	脳性麻痺にみる痙縮・強剛総論	小児脳性麻痺のボツリヌス治療37～48	5月
君塚葵(整形外科)、他	Rate of Complications Among the Recipientsof Intrathecal Baclofen Pump in Japan: A Multicenter Study	Neuromodulation. 2013 May-Jun;16(3):266-72	3月(2013)
根本まりこ(整形外科)、伊藤順一、田中弘志、藤原清香、　瀬下崇、君塚葵	Larsen症候群と思われる家族例	第23回日本整形外科学会骨系統疾患研究会記録集81(抄)、2012.9.10	9月
藤原清香(整形外科), 田邉文, 浜村清香, 田中弘志, 瀬下崇, 伊藤順一, 君塚葵	障害児の新型歩行器(ダイナミックウォーキングエイド)に関する検討	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 50(1): 64 -64 2013	1月(2013)
米山　明(小児科)	発達障害児者への治療の実際　発達障害へのアプローチ　一子どもから成人まで一	Monthly Book Medical Rehabilitation	
米山　明(小児科)	発達障害の早期診断・早期療育の効果(総論)特集「クローズアップ　発達障害	小児内科	
米山　明(小児科)	脊髄性筋萎縮症 Spinal Muscular Atrophy (SMA)	小児内科	
米山　明(小児科)(研究協力)研究全国児童発達支援協議会	「障害児通所支援の今後のあり方に関する調査研究」(平成25年3月)	厚生労働省　平成24年度障害者総合福祉推進事業　全国児童発達支援協議会	3月(2013)
米山　明(小児科)全国心身障害児福祉財団	「発達障害児の早期発見」	H25年度　独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業 「東北被災地の障害児担当保育者への支援事業」	3月(2013)
大久保嘉子　加藤久美子(看護師)	首都圏における東日本大震災が在宅で生活する発達障害児者とその家族に与えた影響	第17回日本在宅ケア学術集会抄録集	3月(2013)
仁宮真紀(看護師)	ダウン症の子供と家族への支援 「思春期の子どもへの関わり」	小児看護	3月(2013)
金子断行(PT)	理学療法-脳性麻痺をもつ子どもへのアプローチ	発達障害支援ハンドブック　金子書房	8月
金子断行(PT)	重症心身障がいがある子に対する呼吸リハビリテーションの実際	難病と在宅ケア 18(6)	9月
浅倉由紀　金子断行(PT)	呼吸耐力低下指数を用いた神経筋疾患児者に対する呼吸リハビリテーションの長期的評価	日本重症心身障害学会誌39(3)	10月
小畑　順一(OT), 杉原素子(原著)	脳性麻痺児におけるパーソナルコンピュータ用4種のポインティングディバイスの操作効率の相違	日本保健科学学会誌15. NO2	9月
佐々木清子(OT)	発達障害領域における食事に便利な道具や器具	テクニカルエイド作業療法ジャーナル6月増刊号、P762-768　三輪書店	6月
佐々木清子(OT)	発達障害領域	山口昇編著:『作業療法臨床実習マニュアル』三輪書店	
佐々木清子(OT)	感覚運動的な視点を用いた発達障害児への作業療法支援	クリニカルリハビリテーションV22-3	3月(2013)
杉本　恵子(ST)	絵で語る	はげみ　平成24年度10・11月号	10月
三浦幸子, 三間直子　(心理)	痙直型両麻痺児を含む肢体不自由児施設の心理臨床	平成23年度心身障害児等の療育に関する研究等事業研究助成報告書	6月
栗原美和、中島尚美、荒木千鶴子、三浦幸子(通園スタッフ)	療育機関における保育スタッフに求められる研修内容　―演習体験を取り入れる意義―	平成23年度心身障害児等の療育に関する研究等事業研究助成報告書	6月

2013年度　論文、著作物

著者名(所属)	題名	雑誌名・書名	発行年月日
瀬下崇(整形外科)	「脳性麻痺児に対する感覚統合障害の評価および作業療法は有効か？」「脳性麻痺児に対する感覚統合療法は有効か？」「脳性麻痺児の上肢機能に対する治療の有効性は？」「乗馬療法の効果は？」「ロボットなど機器を使用したトレーニングは運動機能改善に有効か？」「上肢装具の効果は？」「下肢装具の効果は？」「歩行補助具の効果は？」「脳性麻痺児における呼吸障害に対する訓練法は？」「コミュニケーション障害に対する対応はどのように進めたら良いか？」「Augumentative and alternative communication(AAC)は推奨されるか？」	脳性麻痺のリハビリテーションガイドライン第2版	
藤原清香(整形外科)	乗馬療法の効果は？		

中谷勝利(小児科)	「通所施設や学校などでの感染予防対策の基本～スタンダードプリコーションの考え方～」「その他の感染症の予防接種(肺炎球菌ワクチン)」	はげみ25年度12・1月号　感染症・予防接種	
石川直子(小児科)	その他の感染症の予防接種日本脳炎ワクチン、Hib(ヒブ)ワクチン、子宮頸部がんワクチン		
田邉良(小児科)	B型肝炎・C型肝炎		
児玉真理子(小児科)	感染性胃腸炎とは		12月

北住映二	脳性麻痺の経過と重症度分類	周産期医学　第43巻　第2号　161－165	
北住映二	「支える医療」としての重症心身障害児者医療－その広がりと深まり、その中での医療的ケア	日本重症心身障害学会誌　第38巻第1号　65－70頁	
北住映二	在宅医療支援のための社会資源と今後の課題－学校、特別支援学校との連携	小児内科　第45巻　第7号　1307-1311頁	
伊藤順一(整形外科)	末梢血管モニタリング装置を用いた、術後貧血の計測と小児患者に対する採血回数低減の試み	平成24年度心身障害児等に関する研究事業研究助成報告書	6月
伊藤順一(整形外科)	小児整形外科領域における超音波検査の利用	成23年度心身障害児等に関する研究事業研究助成報告書	6月
瀬下崇(整形外科)	成人脳性麻痺のリハビリ	今日のリハビリテーション治療指針	5月
瀬下崇(整形外科)	脳性麻痺リハビリテーションガイドライン　第2版　(分担執筆)		1月
田中弘志(整形外科)	二分脊椎の内反足変形に対する前脛骨筋外方移行術の長期成績	日小整誌　22(2)：351-355	
光岡清香(整形外科)	第2中手骨の異常を呈したDesbuquois骨異形成症と思われる2例	日本整形外科学会雑誌 巻:87 号:9 ページ:678	9月(2014)
米山　明(小児科)	「障害児虐待の予防と対応」	第一法規	
米山　明(小児科)(研究協力)研究全国児童発達支援協議会	「障害児通所支援の今後のあり方に関する調査研究」(平成26年3月)	厚生労働省　平成25年度障害者総合福祉推進事業　全国児童発達支援協議会	3月(2014)
中谷勝利(小児科)	小児在宅医療における医療ケア最前線：医療行為別の診療ポイント　在宅経管栄養法・経鼻経管栄養	小児内科Vol.45 No.7	7月
田邉良(小児科)、北住映二	重症心身障害児者におけるNPPV(非侵襲的陽圧換気療法)使用状況の全国調査結果	日本重症心身障害学会誌　第38巻第1号　45－50頁	
安藤亜希(小児科)	Q35てんかんに特有な学習障害・性格傾向・行動パターン	小児科学レクチャー第3巻6号「徹底解説！小児のてんかん－多様な事例からエキスパートの「観察眼」を身につける－」	11月
大久保嘉子　加藤久美子(看護師)	首都圏に済む重度障害児者の東日本大震災での経験の特徴	小児保健研究72(2)	
後藤和恵(看護師)	整形外科疾患をもつ子どもに対するプレイ・プレパレーション	こどもケア(隔月誌)　日総研	12月
後藤和恵(看護師)	整形外科疾患をもつ子どもに対するプレイ・プレパレーション	プレイ・プレパレーション導入・実践の手引き　日総研	2月(2014)
仁宮真紀(看護師)	初めての子どものフィジカルアセスメント 「脳・神経フィジカルアセスメント」	小児看護	3月(2014)
大久保嘉子　加藤久美子(看護師)	東日本大震災時の外来看護・訪問看護首都圏に住む重度障害児者の防災対策の検討	第18回日本在宅ケア学会学術集会抄録	3月(2014)
金子断行(PT)	肺内パーカッションベンチレーター使用の実態調査	日本重症心身障害学会誌38(1)	4月
青山祐樹(PT)	家庭での24時間マネージメントに着目して	ボバースジャーナル	12月
佐々木清子(OT)	子どもの理解と援助のために	土田玲子監修：感覚統合Q&A改訂版 協同医書出版株式会社	9月
柄田　祈久子(ST)	「きく」ことの支援	発達が気になる子の子育て支援情報誌No.8	1月(2014)
柄田祈久子・杉本恵子(ST)・佐々木清子(OT)・三間直子(心理)・佐々木さつき(MSW)	発達障がい児支援ガイドブック	発達障がい児支援ガイドブック(板橋区保健所)	3月(2014)

2014年度　論文、著作物

著者名(所属)	題名	雑誌名・書名	発行年月日
北住映二	「合併障害の相互関連と、ライフサイクルにおける状態の変化」「重症児者の呼吸障害の病態・対応の基本」「上気道狭窄」「口腔ネラトン法(間欠的経口胃経管栄養法」「経鼻空腸カテーテル・経鼻空腸カテーテルの挿入・管理法」「異食(異物誤飲)」	北住映二　口分田政夫　西藤武美編集　重症心身障害児・者　診療・看護ケア　実践マニュアル　診断と治療社	
中谷勝利(小児科)	「胃食道逆流症・食道裂孔ヘルニア　①病態と内科的治療・姿勢管理」「経鼻空腸カテーテル・経鼻空腸カテーテルの挿入・管理法(共著)」		
木村育美(小児科)	興奮･自傷行動.		
松塚敦子(小児科)	異食(異物誤飲)　(共著)		
金子断行(PT)西田裕哉(小児科)村山恵子(小児科)	重症児者の呼吸障害に対する治療:パーカッションベンチレーター(IPV)、カフアシストなど		
高橋由美子(むらさき看護師)	爪のケア		
小神野摩弓(むらさき看護師)	看護のポイント　鼻の洗浄		1月(2015)

中谷勝利(小児科)	便秘・排便の異常	はげみ平成26年度2・3月号　健康管理	
石川直子(小児科)	水分摂取不良、脱水症		
山口直人(小児科)	各論3 呼吸に問題がある(つらい、弱い)状態へのケア		
荻田香織(小児科)	嘔吐、腹痛、下痢～対処の考え方、薬の使い方～		
西田裕哉(小児科)	喘鳴、咳、痰など		2月(2015)

北住映二	小児の合併症とリスクー呼吸器系の問題、消化器系の問題	熊倉勇美、椎名英貴編『摂食嚥下障害学』 医学書院　139-150頁	
北住映二	呼吸の障害	岡田喜篤監修『新版重症心身障害療育マニュアル』、143-161頁、医歯薬出版	3月(2015)
北住映二	日常生活等における支援ー呼吸障害・摂食嚥下障害など重要な合併症への理解を踏まえた、日常生活支援、医療的支援	日本重症心身障害福祉協会『在宅重症心身障害児者支援者育成研修テキスト』(平成26年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業、在宅重症心身障害児者を支援するための人材育成プログラム開発事業)　66－99頁	3月(2015)
程原誠、伊藤順一	ブラント病による治療後遺残変形をTalor Spatial Frameを用いて治療した2例	日本創外固定・骨延長学会雑誌	2月(2015)
瀬下崇(整形外科)	痙性内反尖足に対する、前脛骨筋腱外側移行術 (LTT-TA: Lateral　Tendon Transfer of Tibiaris Anterior) の有効性	日本脳性麻痺の外科研究会誌　第24巻	
田中弘志(整形外科)	脳性麻痺の手術療法の適応とタイミング	総合リハビリテーションVol. 42　No.9 849-853	
田中弘志(整形外科)	脳性麻痺の股関節手術	総合リハビリテーションVol. 42　No.10 965-8	
田中弘志(整形外科)	脳性麻痺の膝・足部手術	総合リハビリテーションVol. 42　No.11 1065-9	
田中弘志(整形外科)	二分脊椎の内反足変形に対するPonseti法に準じた初期治療の成績	日小整誌23(1)：175-178	
光岡清香(整形外科)	脳性麻痺に生じる脊柱変形に対する手術療法	総合リハビリテーション第42巻12号	12月
米山　明(小児科)	言語療法	小児内科	
米山　明(小児科)　分担研究主任研究員:本田秀夫	発達障害時とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価(H25-身体・知的-一般-008)	平成26年度厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合研究事業)	3月(2015)
中谷勝利(小児科)	評価と処方、その対応　評価　障害種別による留意点(2)ー内部系、精神・神経系障害　「呼吸障害」「循環」「消化器」「誤嚥」「覚醒度(薬の影響)」「体温調節」	日本車椅子シーティング協会編集『車いす・シーティングの理論と実践』 はる書房　260-275頁	4月
山口直人(小児科)	小さく生まれた赤ちゃんの直接哺乳を妨げる要因	Neonatal Care (1341-4577)28巻2号 Page102-108	2月(2015)
山口直人(小児科)	22　早産児・低出生体重児	母乳育児支援スタンダード第2版	3月(2015)
木村育美(小児科)	てんかんとリハビリ支援	小児科臨床ピクシス23　改訂第二版第1刷ー小児てんかんの最新医療	11月
木村育美(小児科)	てんかんへの社会的支援	同上	11月
尾本和彦(歯科)	摂食嚥下の障害ー摂食機能の評価と食物形態 歯・口腔の障害	岡田喜篤監修『新版重症心身障害療育マニュアル』、170-174頁、医歯薬出版	3月(2015)
大久保嘉子　加藤久美子(看護師)	首都圏に住む発達障害児の母親の東日本大震災での体験	小児保健研究73(1)	
仁宮真紀(看護師)	障害児の痛みと不安「障害がある子どもの家族不安に寄り添うケア」	小児看護	5月
仁宮真紀　後藤和恵　小倉千穂(看護師)	健康の問題をもつ子どものストレス緩和 「心身に障害をもつ子どものストレス緩和」	小児看護	7月
海老原　毅(薬剤科)	小児在宅医療への関わり(HIP研究会編集)	「自宅で過ごしたい」その思いに薬剤師ができること(日経BP社)	9月
海老原　毅(薬剤科)	これだけは押さえておきたい注射薬の基礎知識	日経ドラッグインフォメーション2014年10月号	1月
金子断行　竹本聡(PT)　中谷勝利　北住映二(小児科)他	思春期初期に呼吸障害と胃食道逆流症により状態悪化をきたしたが、その後良好な経過に転化できた脳性まひ児へのアプローチ	療育RYOUIKU　第55号	7月
金子断行(PT)	(訳)	正常発達第2版　三輪書店	10月
金子断行(PT)	シーティングを考える	Medical Rehabilitation.No179　全日本病院出版会	1月(2015)
金子断行(PT)	重症心身障害児・者の呼吸療法	熊本大学医学部重症心身障がい学寄附講座　第7回摂食・嚥下リハビリテーション報告書	1月(2015)
金子断行(PT)　北住映二(小児科)	呼吸リハビリテーション	新版重症心身障害療育マニュアル 医歯薬出版	3月(2015)

佐々木清子（OT）	「発達障害領域の作業療法」	長崎重信監修、栗原トヨ子、里村恵子編集：『改訂第2版　作業療法学　作業療法学概論』 ゴールド・マスター・テキスト株式会社メディカル・ビュー社	10月
森川　豊子（ST）	発達障害児に対するコミュニケーション支援　−吃音・構音障害を併せ持つ事例の臨床像に関する分析を中心に−	平成25年度心身障害児の療育に関する研究事業研究助成報告書	8月
栗原美和、中島尚美、三浦幸子、荒木千鶴子、山形明子（通園スタッフ）	療育の展開に必要な素材・教材の工夫	平成25年度心身障害児等の療育に関する研究等事業研究助成報告書	8月

2015年度　論文、著作物（4月～9月分）

著者名（所属）	題名	雑誌名・書名	発行年月日
北住映二	小児神経病疾患児の呼吸障害への対応（前篇）	難病と在宅ケア　21巻4号　9-14頁	7月
北住映二	小児神経病疾患児の呼吸障害への対応（後篇）	難病と在宅ケア　21巻5号　36-39頁	8月
小崎慶介（共著）（整形外科）	Pathological characterization of pachydermia in pachydermoperiostosis	Journal of Dermatology 42: 1-5.	
小崎慶介（共著）（整形外科）	痙性尖足に対する腱移行術における腱固定の工夫	日本脳性麻痺の外科研究会誌 25.	
伊藤順一（整形外科）	発育性股関節形成不全（developmental dysplasia of the hip;DDH）	Monthy Ortop　特集：保存療法でなおす運動器疾患-OAから外傷まで-　93-104頁	10月
瀬下崇（整形外科） 佐々木清子、奥村久美（OT）	上肢機能評価尺度MACS（Manual ability Classification System：脳性まひ児の手指操作能力分類システム ）日本語版の信頼性の検討	日本脳性麻痺の外科研究会誌　第25巻(25):p 41 -45	
瀬下崇（整形外科）	脳性麻痺リハビリテーションガイドラインと義肢装具のかかわり	義肢装具学会誌31巻3号	
瀬下崇（整形外科）	脳性麻痺のリハビリテーションにおける補装具	義肢装具学会誌31巻4号	
瀬下崇（整形外科）	骨年齢	小児のリハビリテーション評価法マニュアル（診断と治療社）	４月
瀬下崇（整形外科）	41-3　二分脊椎	小児のリハビリテーション評価法マニュアル（診断と治療社）	4月
米山　明（小児科）	障害のある小児に関する援護と保障　自立支援医療（精神通院）と　精神障害者保健福祉手帳	小児内科	
米山　明（小児科）	障害児虐待の現状と予防と対応について	外来小児科	
山口直人（小児科）	Q24早産児を母乳で育てるメリットを教えてください	ネオネイタルケア2015年秋季増刊『NICU栄養管理・母乳育児　なるほどQ＆A』	9月
山口直人（小児科）	Q25早産児の母親の母乳分泌のメカニズムを教えてください	ネオネイタルケア2016年秋季増刊『NICU栄養管理・母乳育児　なるほどQ＆A』	9月
仁宮真紀（看護師）	旅行する子どもの病気への対処 「障害がある子どもの旅行前の看護支援	小児看護	7月
金子断行（PT）	ABPIA会議 in 韓国の報告	ボバースジャーナル38（1）	6月